

## Copyright Notice

This document is provided under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License (CC BY-NC-SA 4.0):

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/>

You are free to:

- Share — copy and redistribute the material in any medium or format
- Adapt — remix, transform, and build upon the material

Under the following terms:

- Attribution — You must give appropriate credit to the publisher, provide a link to the license, and indicate if changes were made. You may do so in any reasonable manner, but not in any way that suggests the licensor endorses you or your use.
- NonCommercial — You may not use the material for commercial purposes.
- ShareAlike — If you remix, transform, or build upon the material, you must distribute your contributions under the same license as the original.

## About the Project

This document was created with the permission of participating publishers as part of the Japanese Multi-Volume Sets Discoverability Improvement Project, funded by the Council on East Asian Libraries and the Mellon Foundation for Innovation Grants for East Asian Librarians.

マイクロフィルム版

往来物分類集成II

女子用往来編

解説目録

雄松堂フィルム出版

第一 教訓型

R-1

〔大東急記念文庫所蔵〕

女訓抄

美濃判 三卷三冊

作者等不記 寛永一六（一六三九）年三月刊

〔概要〕古活字版。内容は、次の謙堂文庫所蔵、寛永一九年版（木板版）とほぼ同じ（謙堂文庫所蔵本参照）。

〔謙堂文庫所蔵〕

一、近世前期に起源をもつ女訓系

女訓抄

美濃判 上中下三卷三冊

筆者不記 林甚右衛門（京都三条菱屋町）梓 寛永一九（一六四二）年七月刊

〔概要〕（卷上）一、四倒八苦（三条） 二、五障三従（一

三条）（卷中）三、継子をかえりみる（六条） 四、

諸衆扶持（八条） 五、身体を保つ（一〇条）

六、主君に仕える（六条） 七、友に交わる（四

条）（卷下）八、芸能へ詩・和歌・連歌・長短歌・

伊勢物語・いろは歌・琵琶・日月運行・十十二

一、教訓型

支・暦・十二月異名・五節句異名・年中行事・彼岸等（三〇条） 九、後家のふるまい（三条）  
一〇、後生善処（七条）

女四書

美濃判 四編七冊

辻原元甫編 筆者不記 小嶋弥左衛門（京都）・中野庄太郎・中野仁兵衛（江戸）の三書肆合梓 明暦二（一六五六）年三月刊

〔概要〕「女孝経上・下」「女論語上・下」「内訓上・下」

「女誠」

〔備考〕中国では、清時代の王晋升が注釈、編集した『女誠』（後漢の曹大家著）、『女孝経』（唐の陳邈の妻鄭氏著）、『女論語』（唐の宋若莘著）、『女範』（王晋升の母劉氏著）の四書を指している。本書は、上記のうち『女範』を除いて、『内訓』（明の成祖の皇后仁孝文著）を加えて、かな文の和訳を施したものである。ただし、本書の編集刊行の年月が、中国のそれよりも古い点に注意しておきたい。

女四書芸文図会

美濃判 花鳥風月の四冊

清原宣明文 村田嘉言画 須原屋茂兵衛・小林新兵衛・岡

田屋嘉七（江戸）・勝村知右衛門（京都）・秋田屋太右衛

門（大阪）の五書肆合梓 天保六（一八三五）年七月刊

〔概要〕（花の巻）前項（明暦版）の「女誠」に当たる、版

一、教訓型

心は「女誠図会」（鳥の巻）前項（明暦版）の「女孝経」に当たる、版心は「女孝経図会」（風の巻）前項（明暦版）の「女論語」に当たる、版心は「女論語図会」（月の巻）前項（明暦版）の「内訓」に当たる、版心は「列女図会」。

〔備考〕前項の明暦版とは四書の順序を異にするけれども、文章は同一。ただし、挿絵はまったく変えて数を増し、江戸後期の庶民風俗にそくしたものに書きかえてある。

女訓孝経教寿

（角書「和漢絵入」）美濃判 一冊

八隅山人述 高井蘭山関・序文 出雲寺文次郎・勝村治右衛門（京都）・河内屋喜兵衛・秋田屋太右衛門（大阪）・須原屋茂兵衛・出雲寺万次郎・岡田屋嘉七（江戸）の七書 肆合梓 文政五（一八二二）年春刊

〔概要〕前掲、女四書中の「孝経」が設けた一八章にわたって、江戸後期の武家や庶民にふさわしい平易な女教訓文に改めたものを収録してある。

〔付載〕（首）「蘭山の序文」「婦人四徳」「二十四孝」「孔子」（頭）「二十四孝（巻首につづく）」「越後国蒲原郡孝女」「本朝二十四孝」、その他和漢の説話（末）「和歌三神像」「慈鎮和尚五常の歌」「三夕の図」「六歌仙」「十二月和名」「六玉川」

女論語躰宝 美濃判 一冊

貝原益軒先生述「とする」山城屋左兵衛（江戸）・秋田屋市兵衛・秋田屋太右衛門（大阪）・菱屋友七・近江屋卯兵衛（京都）の五書肆合梓 弘化四（一八四七）年一月補刻

〔概要〕江戸後期の武家や庶民に必要とされる女子教訓の数々を平易な文章で記してある。前掲、明暦版女四書中の「女論語」とは全くの別文。

〔付載〕（首）「貴族桜を愛でる図」「徳言功容の図と解説」「近江八景和歌と絵図」「和歌三神の図」（頭）「新六歌仙」「三夕和歌」「六六貝合せ和歌」「ぬいもの」「女子やしなひ草」「女ことばつかひ」「立居ふうぞく」「かみけしやう」「衣しやうのならひ」「万しつけかた」「きうじのしやう」「祝言わたましいみ詞」「女一代身もち鑑」「くわいたいやうじやう」「くわいたいかくわいたいにあらぬかをしるること」「産をする心得」「御神事日限」「願成就日」「十二月異名」「十千十二支」

女中庸瑪瑙箱 美濃判 一冊

植村玉枝子編 藤村秀賀序文 紙屋宗右衛門（佐賀）・榎並小兵衛・伊丹屋善兵衛（大阪）の三書肆合梓 刊年不記（江戸後期） 明治四（一八七二）年一二月増補再刊

〔概要〕江戸後期における武家ないし庶民の生活に必要な女訓を、八項目を設けて平易に論じてある。

〔付載〕(首)「序文」「馮媛に関する逸話と解説(色刷り)」

「近江八景和歌と図絵」「南部八景和歌と図絵」「修学寺八景和歌と図絵」「三夕の和歌と図絵」(頭)

「和歌の徳」「万物の起源」「産前産後の心得」「七夕の歌づくし」「二十四孝」「小児養育草」「婦人心得草」「結納婚姻の心得」(末)「月の異名」「破軍星操方」「十幹」「潮汐の満干」

### 女小学 (角書「佩戒絵入」) 美濃判 上下二巻二冊

宇保氏編 慎齋筆 良齋跋 小川彦九郎(江戸)・敦賀屋久兵衛(大阪)の二書肆合梓 享保一〇(一七二五)年三月刊

〔概要〕「孝行の道」「嫁いり」「舅姑につかえる」「夫は天」「人としたしむ」「忍」など二九項目を設けて、女子に必要と考えられた諸教訓を論じてある。

## R-2

### 女小学教艸 美濃判 一冊

北尾雪坑斎画工 藤村善右衛門彫刻 敦賀屋久兵衛(大阪)梓 宝暦一三(一七六三)年五月刊

〔概要〕前項、享保一〇年版にほぼ同文。ただし、ところどころ、簡略化したり、平易な文章に改めてある。

〔付載〕(首)「蛤合の記」「歌かるたの記」「近江八景和歌と図絵」「古今集撰者四人」「牡丹・蓮・菊の図と

一、教訓型

解説「女中品定」「婚礼の図式」「懐妊産後のこと」

「結納進物の図」「女中しつけ方」「小笠原流折形」(頭)「至徳皇后」「蔡人の妻」「俊成卿の女」「楚白貞姫」「駿河の卑女」「斉の義継母」「竹岡の尼」「王孫氏の母」「奥村氏の妻」「孟母」「菊女」「女宗」

「梶原妻女」「斉の孝女」「手習文字のこと」「いろは」「筆・墨・硯・紙」「和歌」「和歌読む心得並に人倫和歌絵抄」「掛香の方」「しみものおとし」「そめもの秘伝」「諸病めうやく」「七夕祭」「七夕歌づくし」「琴・三絃」「琴の名所」「三絃の名所」「三十六歌仙」「女中詞」「四季文章」(末)「男女相性絵抄」「当世艶おしろい」「魂の数を数える歌」

### 女小学姫鏡 (角書「教艸」) 美濃判 一冊

天来閣 白栄堂筆 関關山人照翁序文 天一女子跋文 智聖堂梓 文政一〇(一八二七)年五月跋

〔概要〕本文は、前項の宝暦一三年版に同じ。

〔付載〕(首)「西行の故事に関する絵図と解説」「肥後国の檜垣の故事に関する絵図と解説」「三形の記事に関する絵図と解説」「和泉式部の故事に関する絵図と解説」

### 女小学教草 (女四季玉文章) 美濃判 一冊

文海堂序 大石真虎画工 樋口与兵衛彫工 敦賀屋久兵衛

一、教訓型

(大阪) 梓 享保一〇(一七二五)年三月刻成 宝曆一三(一七六三)年五月新刻 天保四(一八三三)年一月再刊 嘉永五(一八五二)年六月刊

〔概要〕本文も付載記事も、前項の宝曆一三年版に同じ。

ただし、文海堂主人の序文が巻頭にあり、画工も彫工も異なつて、したがつて、版下も異なる。

女小学宝文庫 半紙判 一冊

著編集者不記 山口屋藤兵衛(江戸) 梓 刊年不記(江戸末期)

〔概要〕本文は、前掲の宝曆一三年版にほぼ同じ。付載記事はまったく見られない。

女小学教鑑(角書「改正新版」) 美濃判 一冊

編者不記 須原屋茂兵衛・山城屋左兵衛・岡田屋嘉七・須原屋伊八・出雲寺万次郎・和泉屋金右衛門・藤岡屋慶次郎・山崎屋清七・森谷治兵衛・山口屋藤兵衛・吉田屋文三郎(東京)の一二書肆合梓 刊年不記(明治初年)

〔概要〕本文は、前掲の宝曆一三年版にほぼ同じである。

〔付載〕(頭)「女手習状」「女童心得」「万折りかた」「髪の由来」「白粉のはじめ」「燕脂のはじめ」「鉄醬のはじめ」「鏡の由来」「吉書の詩歌」「女言葉遣い」「七夕の歌づくし」

大和小学 美濃判 一冊

編者不記 筆者不記 村上平楽寺(京都) 梓 万治三(一六六〇)年三月刊

〔概要〕立教第一、明倫第二、敬身第三、の三項を設けて、近世儒教理念にもとづく女子教訓の数々を論じてある。

めのとのさうし並女訓抄 美濃判 二冊

編者不記 筆者不記 杉田勘兵衛丞(京都) 梓 正保三(一六四六)年二月刊

〔概要〕(上)「めのと」に対する諸注意のかたちで、女性が日常生活において守るべき訓戒の数々を記してある(版心は「女訓上」)(下)箇条書きにした女訓、女訓いろは歌、よしあしの品、出雲ことは、女房の悪しきふるまい、宮づかう人のよろしき品、悪しき宮づかいの品、などの諸項を設けて女訓の数々を記してある(版心は「女訓下」)。

庭の訓抄 美濃判 一冊

伝阿仏尼作 伴蒿蹊解説・校注 易得舎藏版 柏原屋庄兵衛(大阪)・須原屋伊八(江戸)・北村庄助(京都)の三書肆合梓 文化四(一八〇七)年一月刊

〔概要〕鎌倉時代中期の歌人で「十六夜日記」の作者としても著名な阿仏尼が作ったと伝えられる女訓書。

中世女訓書として代表的なものひとつであり、なお本書については、江戸時代後期の国学者・歌人として知られた伴蒿蹊（一七三三—一八〇三）が、とくに解説ならびに校注を施している点が特徴といえよう。

## 鑑草 美濃判 六卷六冊

中江藤樹作 風月宗知梓 正保四（一六四七）年八月刊

〔概要〕（巻の一）孝逆報（巻の二）守節背夫報（巻の三）

不嫉妬毒報（巻の四）教子報（巻の五）慈殘報、

仁虐報（巻の六）淑睦報、廉貧報。このような標

題を設けて、近世儒教にもとづく女訓を、中国における事例を交えながら論じてある。

〔備考〕本書は、もともと、中江藤樹によって寛永一八（一

六四一）年に『翁問答』として作られたものである。藤樹がまだ公刊する意図のなかったうちに、

いつの間にか転写されて、そのうちの一本が洩れて書肆の手に入り、出版されてしまった。未定稿

の『翁問答』を回収して絶版とする代わりに書肆にわたしたのが本書である。

## 女教訓文章（角書「絵入」） 美濃判 上下二冊

居初女つな筆 文台屋次郎兵衛（京都）梓 元禄七（一六

九四）年三月刊

〔概要〕（上巻）孝逆の教、守節背夫の教、不嫉妬毒の教、

慈殘の教（下巻）仁虐の教、淑睦の教、廉貧の教  
上掲『鑑草』の要旨を習字手本用に改めたもの。

## 女式目 美濃判 上下二巻 一冊に合綴

作者不明 筆者不記 寛文一（一六六一）年刊か

〔概要〕（上巻）（一）うへうへの上藤方の作法（二）町人な

どの女房の作法（三）うへうへにみやづかへの女

房の作法（四）町人などに仕ふる女房の作法

（五）同じくお乳うばの作法（六）女尼になりての

作法（七）女子おさなきときよりそだてやうの作

法（八）もろこしのしゅうげんの作法（九）五常

の次第（一〇）五倫の次第（一一）五戒の次第

付、十悪五逆の事（下巻）（一）女とりわけて習

ひし給ふべきこと 付、源氏物語のもくろく 栄

花物語のもくろく いせ物語のやうす（二）文

かき給ふべき上中下の次第（三）文こと

ばおなじやうなる事 あらまし

〔備考〕（一）本刊本は、石川謙が昭和一五（一九四〇）年

に、本郷の古書肆 木内書店より購入したさい、

「寛文元年板 今より二百七十九年前 女訓式

目」と墨書された紙片がはさまれていた。（二）本

書には、万治三（一六六〇）年初版の『女式目併

儒仏物語』を初版とするものと、後掲の寛文一（一

一、教訓型

六六一) 版の『本朝女鑑』中の卷十一・卷十二を改編したものと二種がある。古書肆が、本刊本を寛文元年版としたのは、後者を踏まえてのことかもしれない。『假名草子集成 第一巻 あ行補遺』に収められた『女式目』についての朝倉治彦による解題)

R-3

仮名列女伝

美濃判 八卷八冊

北村季吟和解 筆者不記 出版者不記 明暦一(一六五五)年一月跋

〔概要〕(卷の一) 母儀伝(一四人) (卷の二) 賢明(一四人) (卷の三) 仁智(一四人) (卷の四) 貞順(一四人) (卷の五) 節義(一四人) (卷の六) 弁通(一四人) (卷の七) 孽嬖(一四人) (卷の八) 同上(二〇人) 以上のような徳目をたてて、中国の延べ一八人におよぶ女性の徳行について記してある。  
〔備考〕中国漢代において劉向が編集した『列女伝』をもとに、北村季吟が和文によって敷衍したものである。

本朝女鑑

美濃判 一一卷一二冊

浅井了意編 筆者不記 西村又左衛門(京都寺町誓願寺前)

町) 寛文一(一六六一)年九月刊

〔概要〕(卷第一) 賢明上(卷第二) 賢明下(卷第三) 仁智上(卷第四) 仁智下(卷第五) 節義上(卷第六) 節義下(卷第七) 貞行上(卷第八) 貞行下(卷第九) 弁通上(卷第一〇) 弁通下(卷第一一) 女式上(初めて生ずる女子の式、女子をしゆべき式、女に三従の道ある式、婦人は四徳を備へべき式、夫につかふる式)(卷第一二) 女式下(舅姑につかふる式、人を召しつかわるる式、うわなり妬みを誠むる式、継子をはごむ式、後家の式) 以上の諸項を設け、卷第一一・一二を除き、日本の延べ八五人におよぶ女性の徳行について記してある。

武家女鑑

半紙判 三卷六分冊

津坂孝綽作 山城屋佐兵衛(江戸)・吉野屋仁兵衛(京都)・今津屋辰三郎・河内屋外助・河内屋太助・河内屋記一兵衛(大阪)の六書肆合梓 寛政八(一七九六)年三月序 天保一一(一八四〇)年一月刊

〔概要〕(二分冊) 序文(二種)・卷の上(棚津媛・上毛

野形名妻・安倍則任妻・源為義継室・源義朝二女・鎌田政家妻)、(二分冊) 卷の一下(源渡妻・小宰相局・土肥実平妻・志水義高妻・源義経妻)、(三分冊) 卷の上(泉忠平妻・仁田忠常妻・毛利西阿妻・北条時頼母・菊池寂阿妻)、(四分

冊)・卷の二下(淡河時治妻・名越時有妻・佐介貞俊妻・楠正行母・瓜生保母・武田勝頼妻・兵部少輔某妻)、(五分冊)卷の三上(那須資友母・山名氏清妻・大内義隆妻・今川氏親妻・尼子晴久妻)、(六分冊)卷の三下(松田將監妻・重富兼雄妻・慶寿院殿・奈良義成妹・清水正次母・富田信高妻) 跋文

〔備考〕 外題を『教訓女鑑』(内題「武家女鑑」とし、三分冊にまとめた別本がある。(出版者・出版年月等は同一、ただし跋文を欠く)

## R-4

**比売鑑** 半紙判 三巻二六冊(内題「姫かがみ」「ひめかがみ」「ひめ鑑」「比売かがみ」「姫鑑」「比女鑑」)

中村惕斎作 田中宗栄堂(大阪) 原版 須原屋茂兵衛(千鐘堂)(江戸) 梓 貞享四(一六八七)年一月序 十二巻七分冊まで宝永六(一七〇九)年一月刊 以下正徳二(一七一一)年一月刊 全冊嘉永三(一八五〇)年一月 再版  
〔概要〕 伊蒿膝・伏見江閑人序 述言第一から十二と、紀行第一から十九よりなる。

### 一、教訓型

## R-5

**婦人教訓書** 美濃判 一冊

金森判兵衛(大阪) 作 秋田屋市兵衛(大阪) 梓 享保一四(一七二九)年一月刊

〔付載〕(首)「序(金森保政)」 「吉書はじめ」(頭)「花見車」「嵯峨名所硯」「七夕歌尽手向詞」(末)「女中文の封じよりの次第」「小笠原折形の図」

**やしなひ草** 美濃判 五巻五冊(内題「和漢婦人養草」)

梅塙散人作 梅村弥右衛門(京都)・塚本治兵衛・同半兵衛(金沢)の三書肆合梓 元禄二(一六八九)年二月上旬刊  
〔概要〕(巻第一)序・援引和刊の書目・胎内の子に道をおしゆる法・胎に子の宿る十月の間のこと・妊婦の食物・禽獸は父を知らず母を知る・乳母の選択・百濟より歴史を日本に伝える・冷(すさま)しきもの・火鳥・架の由来・虫のしるし・貧女を蘇子膳が詩に作りて発明あること・鹿笛・舞妓亀菊が申状・産生社・尼のはじめ・鞠のかかりの木四本を歌よむ女・辻卜・狐のなくに吉凶を校ること・商人の下女をひしゃめということ・五種の不男・日本紀より齋宮の由来出たること・牛の角文字・三月は婚姻によき月・門に錦木をたてる・淡路笠より加賀笠がよい・産後の胞衣納め・四十二の二

一、教訓型

つ子を忌むこと並びに丙午の女を忌むこと・風流陣並びに肉陣・七人の子をもつとも婦に心許すまじきこと・虎石並びに望夫石・王荊公娘に楞巖経を贈る・阿仏坊・旦那が花売りけること・上中下臈・加茂こもりに虫入る・和歌の発声・柳筥並びに硯蓋・女房の装束五つきぬのこと・正月十五日かゆの木のこと・厨女(くりやめ)、(巻第二)白拍子のはじまり・遊女のはじまり・ゆづの妻櫛・蚕のはじまり・呉服穴服・為世卿頓阿法師より短冊はじまる・五條大路にある針女の社・俊頼卿のもてる桐火桶・吉備公野馬台の詩を読みたもう時より縫物はじまる・大伴の佐提彦より組糸はじまる・細布・扇合・乳母のはじまり・檀林皇后の歌を齊安国師感じ給うこと・神功皇后応仁天皇を妊み給いし御時のこと・常磐井入道相国詠歌・醜婦を頑濁肥黒の四字によく適えしこと・隣の醜婦が眉をひそめしこと・南山の玄豹もおのれが身を嗜むこと・楚莊齊桓妾にいさめられ給うこと・西京にある夫婦雁のわたるを聞きて鬨(いさかい)すること・孟子のつまを去らんとし給うを母のいさめ給うこと・涅槃経の要文・呉の西施が乳を河豚魚にたとえのこと・山名清氏内野の合戦に喜家の九郎が元姫に恋慕のこと・鳥居与七郎の妻・我がもとゆいの結び目に夫の封をこう女・武昭妃と蕭

淑妃と人の靈魂猫と鼠に生ること・和漢両朝に二代の妃たち給うこと・藤原基通卿の簾中を衣通姫にたとえしこと・土佐国妹背鳴のいわれ・唐より難波の浦へ遺唐使の子ながれ来たること・飛頭蠻・岡山のほとりにて山姫にあうこと・恵心僧都の妹安養尼御前・光明皇太后阿闍仏にまみえる・奈良都東園堂にある八重桜・男色の道三国に至りて盛ん・さられし女詩歌の徳に依て二度夫家へ戻ること・松下禅尼古障子を修理し給うこと・三人の娘いづれも歌人あること・藤原伊平の娘厚氷のうたのこと・山名禅高の妻餅を食して恥ること、(巻第三)むかし名譽の相人ありしこと・婦たるものは猶も博奕を忌むべきこと・嫉妬する女の夫の足に綱つけしこと・眉とぢめということ・女官の次第・皇后を淑房と名づくること・母をさして聖善ということ・妻の異名・女の四徳・妾の異名・女子の誕生を祝う詞・娘の異名・媒の人の異名・とりあげ婆の異名・すわいの女子の異名・神子(みこ)の異名・比丘尼の異名・ま男の異名・女の再びえんにつくを文章にいう言葉・輿副の侍の異名・出家してもとの妻をいう異名・霜女雪女・再び女をめとる詞のこと・御厨子棚かざりよう・黒棚かざりよう・香ききよう・翠簾寸尺のこと・人の病に面影という煩のこと・楊貴妃誕生の時奇

特・双子に兄弟論あること・陣屋へ女を忌むこと・村上帝宣耀殿の女御に贈答御うたのこと・竹岡の尼中納言顕基卿へ歌よみつかわすこと・女に三従の道七出三不出の道あること・關雎の詩並びに周礼に女史八人をすゆること・嫁娶するに六礼あること・晋の献公の後驪姫・魏国の本夫人美人の刺こと・尹吉甫が妻まま子に衣の蜂をとらすること・梁と楚と両国瓜つくり民のこと・席を弊（やぶら）ざる教えあること・弁の内侍を武蔵守師直が思いかけしこと・洞院実世卿の娘菜摘川に身をなげ給うこと・竺土善法女千手経の利益あること・下野国宇津の宮の田夫の妻盗人をとらえしこと・唐にてある女夫の敵を計策にてあだを報ぜしこと・銭に足ある故に女中の銭をあしということ・女中の酒をささという謂れ・蒺藜草は婦人の毒・常陸帯・紀の関守がたつる弓・芭蕉の女に化して五言の詩作ること・住吉の浦にて蛙の女に化して歌よむこと、（巻第四）鴛の刃羽のいわれ・一条院の御時に兼衛別当という名誉の相人のこと・太公房が妻の義理を失うこと・産女は姑獲鳥という鳥なること・京ひがし山獅子谷鬼子のこと・江州枝村にて禅僧の女と化すること・独女は忌て舟にのせぬ法あること・伊豆国の住人清水上野守の妻勇力ありて牛を助しこと・小野頼風女郎花を見

しこと・有智子内親王加茂斎院へもうでて詩作給うこと・二位尼前短慮にて入水のこと・親の尸骨に子の血をあやせばその験あること・女は夙夜に独りかぬ誠のこと・芹つみしまうくた丸がこと・伊勢や日向の物語・風才美が新婦家を治るに升を二つにせざること・梁の国の寡の貞節をたてて宮仕をやめしこと・一遍上人の由来・もろこし文安県の田夫の婦不幸なる心を改めしこと・当帰と遠志と二つの薬種にて夫婦贈答のこと・趙簡子桑とる女につけて意味ある工夫のこと・嫉妬する女絵を見て愁を忘るること・我妻女に三度おそるる戯言のこと・張天錫二人の妾をころして悔むこと・首（かしら）にこぶは賤女の後にそなわること・紅粉白粉のはじまり並びに代々に女の風俗品あること・貝おおいするに由来あること・一山兀菴二人の禅僧もろこしよりわたること・岩見瀉のあま人国司に歌たてまつること・まづしき女の鏡を売ること・化粧坂の遊君・頼家將軍景盛の妾をめさること、（巻第五）とばり帳・かべしろ・脇息・かかげの筥・天児（あまがつ）・犬はりこ・産育（うぶやしない）・ぬさ袋・熏衣香（くんえこう）・衣被香（えひこう）・かわほり・琴琵琶和琴の故実・催馬楽・朗詠・水宴曲・今様・雑芸・和歌披講・神楽・温明殿・囲碁・双六・女の

文字「かしこ」の字かくこと・正月七日七種・三月三日上巳日桃の宴・五月五日菖蒲をかざること・九月九日重陽のこと・女の物いいつつしみのこと並びに女中つかう言語のこと・童女の通称・菊の花にきせ綿すること・御の字のこと・宇治の橋姫・妻は二世のこと・花山法皇弘徽殿の女御の御事・年老たる夫を若年の妻貞節のこと・宮田左馬助が母・柴田勝家の婦人・貧女が一灯長者の万灯にまさること・孔子の兄の娘を南容に娶せ給うこと・漢鮑宣花麗の妻をいとうこと・唐鄭義宗が妻姑に孝行すること・女のかしこだてなるは牝鶏妖ということ・女のもてる道具の品々あつむる文字・女子をば勝れたる方へやるべきこと・江東と鄭女の風俗格別なること・女子をば寺道場をいみてまいらする間敷教のこと・進命婦清水もうでのこと・道命法師和泉式部がもとへ因かようこと・滋賀寺の朝勸上人淫奔のこと・雲居寺の淨蔵浮き名の立つこと・古き歌よみの女の異名・猿の形に似たる者のこと並びに湯女を猿ということ・女に髭の生ぜぬに子細あること・大内義隆色に荒みて家を滅ぼし身を失うこと・鎌倉蛇谷の謂れ・女人の上に五障とて五の障りあること・大巳貴神活玉依姫のこと・梅塙散人の跋文

## 悔草 美濃判 上中下三卷（一冊に合綴）

作者不記 出版者社不記 慶安二（一六四八）年三月刊

〔概要〕（上）序文・親の子を慈しみ思うこと・稚児のこころみあること・いとけなきとき教えのこと・人なりにしたがいし入ること・二八あまりは人のせご

しのこと・兄弟より物あらそうこと・夫淫乱おそるべきこと・婦人三従の道つつしむべきこと・孝行の心入れのこと・奉公の勤めようのこと・欲にふけるを忌ましむること・口よりよしあし出ること・万の所作怠ること・友達と交わりのこと・常に養生好むこと・ぶねんより悪事となること・思案分別したうべきこと・万のおきて守るべきこと・よろづ修理をなすべきこと・富貴にておごるまじきこと・物事あらそうまじきこと・かりそめも長るをせいすること・ひざともだんごうということ・物ごとあなどるまじきこと・まことに似たる偽りのこと・諸事あつかう心入れのこと・人のうたがい除くこと・それぞれ得たる道々のこと・万事時に従うべきこと・心のよしあしわきまうべきこと・身のくせをうとむこと・果報貧福しられぬこと・あだは恩にて報ずること・慈悲によしあしはかること・ばくちわざうとまること・遊女にたわぶること・ぶれいをしかく共堪忍のこと・口論も言いがちに言うまじきこと・門家に入りて

うかがうべきこと・人の心を見らるること・小  
なりとも壁書のこと、(中)子のおおきをうたてし  
ということ・読みかきこのむ人の道にかくるこ  
と・あきなう人はまがらでは成がたきこと・むす  
めに教訓の歌のこと・身たのみをせましきこと・  
技にもあらぬ殺生のこと・けがはぜひなきとい  
うこと・酒のいみじきをいとうこと・下手の碁をい  
とむこと・主君のよしあしのこと・茶の湯の道  
うらやむこと・花をこのみ月を見よとのこと・客を  
もうけて心入れのこと・御茶はこびようのこと・  
膳に向い食用よのこと・まんじゅうにはしのそ  
うこと・進上の魚鳥台にすゆること・とりえのな  
き人うれうること・書籍見ても理のにぶきこと・  
芸のう見てよしあしのこと・人は一芸あらまほし  
きこと・歌のみちしたうこと・年よりてきこな  
きということ・むかし人は上根なりということ・  
万れんまの功は有るべきこと・あやうきわざも勇  
ということ・物ごとむさとおそるること・よろづ  
忌むといまざること・病る時くすしもんじやくの  
こと・旅にて持つべき薬のこと・馬舟に乗りてつ  
つしむこと・人はかどのなきこそそいよきこと・  
小人の内も掟ただしかれということ・人の思うけ  
て忘るること・ゐんではれきせんのこと・問わず  
語りをいいまじきこと、(下)まづしければ心ひが

むこと・をろかにて心のたらぬこと・月こそ物を  
思わすること・心得がおしてあざむかるること・  
おもき物はうとまるること・唐の帝あまごいのこ  
と・わらんべと盗人のこと・欲にまよう愚僧のこ  
と・物せわしきをきらわること・人あいよくて内  
るのあしきこと・主君の威をかさにきること・案  
の字百貫ということ・野心ということ・横道者  
にはよけのくこと・口利は無理ながら言勝つこと・  
物に不審をなすこと・夢はいなものということ・  
息災の時遺言は有度こと・しする道は重きてかろ  
きこと・物くやみをいけんのこと・よしあしは限  
りなきこと・正月の門松のこと・三月の桃花をい  
わうこと・五月五日を端午ということ・七月七日  
をまつること・八朔をいわうこと・九月九日を重  
陽ということ・十が亥の日の餅いわうこと・節分  
をついなということ・土用八專間日のこと・現世  
後生をいのること・生涯は定めなきこと・臨終に  
紫雲のたつということ・友人宗旨をかたること・  
物は縁によりて生ずること・先祖の宗旨をまもる  
こと・心地の工夫を願わしきこと・跋文

### 智恵鑑

美濃判 一〇卷八冊

橘軒散人 上村次郎衛門(京都) 梓 万治三(一六六〇)

年三月刊

一、教訓型

〔概要〕（一分冊）巻第一「上智（殿の高宗民の辛苦を知り給うこと）など一九事例」、（二分冊）巻第二「明智（太公望營丘へ早く入部せらるること）など二八事例」、（三分冊）巻第三「察智（溜川の揚武麦盗人を知ること）など一六事例」、巻第四「胆智（齊の桓公寧戚を引上給うこと）など九事例」、（四分冊）巻第五「術智（齊の孫殞競馬の賭けに勝つこと）など一三事例」、巻第六「捷智（漢の高祖矢にあたり給うこと）など一五事例」、（五分冊）巻第七「語智（齊の晏子隣国へ使者に行くこと）など二〇事例」、（六分冊）巻第八「兵智（漢の高祖項羽を滅ぼし給うこと）など二三事例」、（七分冊）巻第九「閨智（趙奢が妻子の器量を見しること）など二四事例」、（八分冊）巻第一〇「雑智（閔卿の僧牛を盗むこと）など一四事例」、橘軒筆の跋文

R-6

二、女今川状系

女用様躰今川 美濃判 一冊

筆者不記 寺田与右衛門（大阪）梓 享保一三（一八一）年三月刊

〔概要〕内題を「今川の掟によせて女躰の条条」とし、条文を三二か条にしてあることなど、流布した「女今川」とはまったく内容の異なったものである。  
〔付載〕（首）「源氏物語絵図」（頭）「躰方訓歌」「正月書初詩歌・七月七夕歌尽」「片言なをし」

女今川錦の子宝 美濃判 一冊

田むらよし尾女筆 出版者不記 元文二（一七三七）年一月刊

〔付載〕（首）「孟母断機の図と解説」（頭）「女躰方五章」「女のことばよしあし」「沓冠・輪廻・傍題」（末）「忍の字訓」「夫婦を妹背という因縁」  
〔備考〕流布した「女今川」の中で、本書は謙堂文庫が所蔵する最古の刊本である。

女今川教草 美濃判 一冊

田村よし尾女筆 鶴屋喜右衛門・村田屋次郎兵衛（江戸）の二書肆合梓 「宝暦一二年改元文二年丁巳十一月吉日」としてある。

〔備考〕前項とまったく同じ。同一版下を用いたもの。元文二年原版を宝暦一二年（一七六二）にいたって後刷版として発行したものと目される。

女今川（角書「女童専用」） 半紙判 一冊

筆者不記 丹波屋伝兵衛・柏原屋佐兵衛（大阪）の二書肆  
改正版合梓 菱屋孫兵衛（京都）後刷版 明和八（一七七  
一）年三月書 安永七（一七七八）年一月改正版 文政九  
（一八二六）年後刷

〔概要〕 大綱は元文二年版と同一であるが、内題を「今川  
状になぞらへて女をいましむ制詞の条々」とし、  
文章に若干の異同が見られる。

〔備考〕 本書の原版発行の年月は不明である。

## 女今川姫鏡

（角書）「日用通便 女要文章」 美濃判 一

冊

筆者不記 西川祐信画 菊屋七郎兵衛（京都）梓 宝暦一  
三（一七六三）年七月刊

〔概要〕 本文は、おおむね元文二年版に同じ。頭書欄に注  
解があるのが特徴。

〔付載〕（首）「鏡の由来についての絵と解説」「和国玉かづ  
ら拔書」「婚姻の儀式についての絵と解説」「食札」  
「出産心得」「給仕の次第」「和国名女」「男女相性相  
剋」「小笠原流折方」「女教訓絵抄」（頭）「女今川  
の抄」「五節句由来」（末）「歌かるたならべようの  
図」「六歌仙」「七夕詞歌」「中国列女伝」「三十六  
歌仙」「女用文章・・・初春の文はじめ五九例」「染  
物の秘伝」「しみ物おとしよう」「女たしなみ草」  
「一代守本尊」「万くい合わせ」「京女房詞よせ」「願

一、教訓型

成就日「守り本尊を知る歌」「女中文の封じよう」

女今川梅花文庫（題簽剥落 内題による） 美濃判 一  
冊

筆者不記 西村屋伝兵衛原版 西村屋与八「永寿堂」（江  
戸）再版 安永五（一七七六）年五月刊

〔概要〕 本文は、おおむね元文二年版に同じ。

〔付載〕（首）「勅なれば いともかしこし・・・の和歌に関  
する図解」（頭）「五節句の由来」「歌仙貝」「一代  
守本尊」「女中名字尽」「かんざし雛形」（末）「三  
夕の図」

〔備考〕 原版発行の年月は不明である。

女今川教文（角書「再板改正」） 美濃判 一冊

玄海堂筆 菱屋治兵衛・菱屋久兵衛（京都）の二書肆合梓  
明和四（一七六七）年一月書 安永七（一七七八）年刊

〔概要〕 本文は、おおむね元文二年版に同じ。

〔付載〕（首）「女教訓読書本目録並びに図」「四民女性の図  
と解説」「古今集・新古今集・拾遺集・千載集に掲載  
されている女流歌人の図と和歌」（頭）「七草の弁」  
「曲水の宴」「上巳の由来」「端午の由来」「七夕の  
由来」「八朔田面」「重陽の由来」「婦人名尽」「仕  
立物の弁」「たち物いそぐとき詠む歌」「倭言葉」  
「女妙薬療治手箱集」「鶯蛙歌詠みしこと」「夫婦相

性「小笠原流折形図」「結納荷物請取」「歌道女心得弁」「祝言の夜忌み言葉」「女髪結いようの名」「懐妊によき食物」(末)「版元の跋文」「六歌仙人像」

### 女今川艶紅梅

筆者不記 蔦屋重三郎「耕書堂」(江戸) 梓 天明元(一七八一)年八月刊

〔概要〕本文は、おおむね元文二年版に同じ。

〔付載〕「雨乞い小町の図と解説」「和国八勝景」(頭)「女平生たしなみ草」「七夕の由来」「男女相性」「女中文封じよう」「目録折紙の書きよう」(末) 小笠原折方式正の図」

### 女今川躰糸 美濃判 一冊

筆者不記 北尾政美画 西宮新六・前川六左衛門(江戸)の二書肆合梓 天明九(一七八九)年一月刊

〔概要〕本文は、おおむね安永七年改版本に同じ。

〔付載〕(首)「女子諸芸の図と解説」「婚礼の図式と解説」「香道たしなみのこと」「本朝名女」「男女相性」「女中五性により善悪のこと」「百人一首に関する図と解説」「女風俗躰時」「里海士人磨像」「修業和歌の伝」「版元の序文」(頭)「男女日用日頃草」

### 女今川(角書「御家」) 美濃判 一冊

橘正敬筆 菱屋久兵衛(名古屋)・菱屋治兵衛(京都)の二書肆合梓 寛政八(一七九六)年五月書 文化九(一八一二)年六月購版

〔概要〕本文は、おおむね元文二年版に同じ。

〔付載〕(首)「式子内親王・清少納言・伊勢・小野小町の図と和歌」「賢女名女の図と解説」(頭)「教訓日々草」「仮名つかひのこと」「万折形の図」(末)「七夕歌づくし」

### 女今川(角書「江戸新板」) 美濃判 一冊

筆者不記 遷喬堂眠甫彫刻 和泉屋市兵衛(江戸) 梓 文化一一(一八一四)年三月刊

〔概要〕本文は、おおむね元文二年版に同じ。

〔付載〕(首)「女手習状」(末)「十二支の図」「九族の図」

### 女今川千代見種(角書「新板頭書」) 美濃判 一冊

筆者不記 鶴屋喜右衛門(江戸) 梓 文政七(一八二四)年四月刊

〔付載〕(首)「堪忍の大意」(頭)「女今川ヶ条の解」「衣類

たちぬいのこと」「万しみもの落としよう」「女給仕しつけかた」「女中茶の湯心得」「女中文言葉」「文したためよう」「女子雛祭り」「夫婦相性吉凶」(末)「三夕の和歌」「衣装たつときの歌」

女今川錦子宝 (題簽剝落 内題による) 美濃判 一冊

筆者不記 和泉屋市兵衛「甘泉堂」(江戸) 梓 文政九(一八二六)年再版 天保八(一八三七)年再刻

〔概要〕本文は、おおむね元文二年版に同じ。

〔付載〕(首)「蓮菜の台の図と解説」「六玉川」「和琴の図と解説」「琵琶三味線の図と解説」(頭)「年中祝事の始」「女中食札指南」「婦人給仕指南」

〔備考〕本書の原板の発行年月は明らかでない。また、刊記にある「再版」と「再刻」の区別も明らかでない。

### 絵本女今川 半紙判 一冊

筆者不記 葛飾北斎画 須原屋茂兵衛など江戸・大阪・名古屋の一三書肆合梓 刊年不記(文政ころ)

〔概要〕本文は、おおむね安永七年改版本に同じ。文中に二面大の挿絵があり、追丁になっている。また、巻頭には源瑲筆の序文がある。

### 女今川益鏡 (角書「世宝躰方」) 美濃判 一冊

玉水亭筆 岡田茂兵衛彫刻 河内屋喜兵衛(大阪)・吉野屋仁兵衛(京都)の二書肆合梓 天保一二(一八四一)年九月刊

〔概要〕本文は、おおむね安永七年改版本に同じ。巻頭に、版元の序文を収める。

〔付載〕(首)「女子講席の図と解説」「葺津姫の図と解説」

#### 一、教訓型

「神功皇后の図と解説」「忍坂大中姫の図と解説」

「冷泉隆房卿の北の方」「皇后歎子の図と解説」「右京太夫の図と解説」「待宵の小侍従」「女の四芸(書筆・裁縫・詠歌・弹琴)」(頭)「嫁文章」「女用文国尽」(末)「衣(きぬ)をたつときの歌」「らんこう日(灸をせざる日)」「願成就日」「不成就日」

### 女今川宝文庫 美濃判 一冊

筆者不記 柏原屋清右衛門(大阪) 梓 天保一二(一八四一)年四月再刻

〔概要〕本文は、おおむね元文二年版に同じ。

〔付載〕(首)「和歌三神」「大中姫の逸話」「衣通姫の逸話」「草香幡援姫の逸話」「小式部の逸話」「貫船社にまつわる逸話」「頼朝の逸話」「中納言行平の逸話」「第弐三位の逸話」「織田信孝の臣幸田彦衛門母」「上東門院の逸話」「光明皇后の逸話」「待賢門院の逸話」「十種香きくこと」「化粧の図と解説」「四民女いとなみ草」「七夕の由来」「七夕の歌尽」「六玉川」「貝桶の図説」「婚礼略式」「女小学五章」「熱田縁采女のこと」「照田姫の逸話」「千代能姫の逸話」「周防内侍の逸話」(頭)「女用文通心得」「五色和歌」「五行和歌」「三十六歌仙」「小笠原流折方」「短冊を草木に結ぶ法」

〔備考〕本書の初版発行の年月は明らかでない。

一、教訓型

女今川錦乃囊

美濃判 一冊

佐藤慎齋筆 栄慶幸三郎(江戸)梓 天保一三(一八四二)年一月刊

〔概要〕 本文は、おおむね元文二年版に同じ。

〔付載〕(首)「女子諸芸の図」(頭)「三十六人女歌仙」

〔節句由来〕(末)「十二月異名」

女今川教玉章

美濃判 一冊

池田善次郎編 溪斎英泉画 和泉屋市兵衛(江戸)梓 天保一四(一八四三)年夏刊

〔概要〕 本文は、おおむね元文二年版に同じ。巻頭に版元の序文を取めている。

〔付載〕(首)「古今集四季の歌」「七小町のこと」「男女一代守本尊」「婚礼式次第」「懐帯の祝儀」「食初めの祝い」「髪置の祝儀」「八將軍のこと」「年中二十四

氣」「十二直のこと」「暦の下段にある辞の解」「中段の解」「下段の解」「有卦無卦のこと」「六曜毎日善悪を知る」(頭)「女教訓文章」

女今川並十二月和歌

美濃判 一冊

芝泉堂陽谷筆 和泉屋吉兵衛「泉栄堂」(江戸)梓 天保八(一八三七)十二月跋文

〔概要〕 前半に元文二年版本とほぼ同文の「女今川」を、後半に月単位に二種の和歌を取める。最後に陽谷

の門人である大津暘挙の跋文がある。

教訓女今川宝袋

美濃判 一冊

小粟大人漫筆 仲田玉亭先醒画 大和屋善四郎(京都)

河内屋茂兵衛(大阪)・小倉屋源三郎・八大屋弥吉(伏見)の四書肆合梓 弘化二(一八四五)年九月刊

〔概要〕 本文は、おおむね元文二年版と同じ。

〔付載〕(首)「女性にふさわしい発句と関係する絵図」「蒸

麦食いようの注意と絵図」(頭)「文字の由来」「白粉の由来」「七夕の由来」「臙紅の由来」「海人の仕事」「遊女の由来」「商いする女」「洗い濯ぎ」「綿帽子の作り方」「機織りの由来」「数珠屋」(末)「七夕といえる条」

女今川姫小松

美濃判 一冊

筆者不記 秋田屋太右衛門「宋栄堂」など大阪・江戸・京都・博多・倉敷・岡山・姫路・高知の一〇書肆合梓 嘉永三(一八五〇)年一月再刻

〔概要〕 前半に元文二年版本とほぼ同文の「女今川」を、

後半に「女教訓百ヶ条」収める。

〔付載〕(頭)「柿本人麿はじめ三十人におよぶ歌人の和歌

と関連する図絵」「源氏物語」「女三十六人歌仙」「七夕の由来」「七夕祭の和歌」「染物のひでん」「しみ物おとしよう」「妙薬秘方」「手ならいのこと」

「三味線のこと」「貝おおい歌かるたのこと」「香を  
きくこと」「懸ごう名方」「薫物の名方」「かなづか  
いのこと」

〔備考〕(1) 本書の初版発行年月は明らかでない。(2)

本書は、上記の編集方式並びに内容から、合本科  
往来に属すともみなすことができる。

## 女今川増鏡 小本 一冊

筆者不明(刊記剝落のため) 出版者不明(同上) 刊年  
不明(同上、江戸後期)

〔概要〕 本文は、おおむね安永七年改版本と同じ。

〔付載〕(首)「浅香山 かげさへみゆる 山の井の 浅く

はひとを 思ふものかは、はじめ著名な和歌六種  
とこれにちなんだ絵図」

〔備考〕 小本形式の「女今川」は稀有であり、その意味で  
本書は貴重である。

## 女今川教種 美濃判 一冊

筆者不記 池田屋源三郎・本屋治兵衛(仙台)の二書肆合  
梓 刊年不記(江戸後期)

〔概要〕 本文は、おおむね元文二年版本に同じ。

〔付載〕(首)「女子諸芸の図と解説」(頭)「女中身持ち粧

い鑑」「小笠原流折形図」「結び形の図」「女中文封  
じよう」「婦人やまと詞」「色紙・短冊の寸法」「目

録折紙の書きよう」「七夕うたつくし」(末)「女和  
歌三神」「よみくせ」

〔備考〕 仙台版の「女今川」は少ない。その意味で本書は  
貴重である。

## 女今川(角書「明治」) 半紙判 一冊

小原燕子作・書 松山文平「文圀堂」(東京)梓 明治一三  
(一八八〇)年五月刊

〔概要〕「女今川」の編集形態にならって、明治初年におけ  
る女性にふさわしい教訓の数々を記してある。巻  
頭に、中村敬字の序文等を収めてある。

## 女今川(角書「改正」) 半紙判 一冊

浦野直輝作 巻菱潭筆 江鳴喜兵衛(東京)・朝野利兵衛  
(佐原)の二書肆合梓 明治一三(一八八〇)年六月刊

〔概要〕「女今川」の編集形態にならって、明治初年におけ  
る女性にふさわしい教訓の数々を記してある。前  
項の「女今川」とはまったくの別文。

## 芸妓今川状 半紙判 一冊

浅野米次郎「雨燕」(京都)著・発行 太田活版所(京都)  
発売 明治一五(一八八二)年七月刊 定価三錢五厘

〔概要〕「女今川」の編集形態にならって、芸妓の心得の  
数々を記したもの。なかば戯文にしてある。

一、教訓型

〔付載〕(頭)「芸妓の濫觴」「芸妓の信心すべき神仏」「芸妓の所持すべき薬」「頭髷のこと」「衣類のこと」

〔備考〕 原本は、三次市立図書館蔵。ここには、毛筆で原本のとおり筆写したもの(謙堂文庫蔵)を収めた。

R-7

三、女実語教系

女実語教・女童子教(角書「女誠絵入」) 美濃判 上下二冊

〔概要〕

(上) 女実語教 (下) 女童子教 居初つな筆・画 錢屋庄兵衛(京都) 梓 元禄八(一六九五)年三月刊

「女実語教」で四七条、「女童子教」で二二八条に およぶ女訓を列挙してある。なお、上巻には、「女実語教」の本文に先立って、中国の女四書における趣意を採って「しもつかたの人」の手習教科書に仕立てたものであることと「序文」を収めてある。

女実語教鎖囊 美濃判 一冊

内題の右に「万代日用膳方大全」の文字を添える。

筆者不記 菊屋喜兵衛「菊秀軒」・鉛屋安兵衛「鬻書館」

(京都)の二書肆合梓 享和二(一八〇二)年一月刊

〔概要〕 「女実語教」と「女童子教」との区別を立てないで、

ずるずると続く一巻に仕立ててある。

〔付載〕

(首)「小野小町」の故事に関する図と解説」「伊勢両宮風景に関する図と解説」「京嵯峨風景に関する図と解説」「御所風の図と解説」「武家風の図と解説」「町風の図と解説」「妾風の図と解説」「尼風の図と解説」「遊女風の図と解説」「四計の図と解説」「不成就日」「男女相性」「女中名尽」「尼の名尽」「女言葉づかい」「女中教訓歌」「女官の称号」「女中文書様」「女諸礼万膳方」「女中文の封じよう」「裁も秘伝」「進物積みよう」「十種香聞様口伝」「楊枝指仕様秘伝」「教訓身持狂歌」(頭)「宝舟の因縁」「女中身持ち鑑」「女中所體鑑」「和漢貞女鑑」「十二月倭名並びに節日の由来」「婚礼の法式」「懐胎身持の事」「三十六歌仙」(末)「小笠原流折形」「板元の跋文」「女中文封じ様事」

女実語教

半紙判 一冊

筆者不記 出版者不明(大阪の書肆) (刊記剝落)文化三(一八〇六)年五月刻成 天保二(一八四一)年一月再刻

〔付載〕

(首)「女子教養の図と解説」(頭)「女身持鑑」「女中言葉づかい」「婚礼に言うまじき詞」「小笠原折形の図」「大日本国尽」「京都町尽」「男女相性」「六十の図」「四悪十悪の事」「縫物秘伝」「嫁入吉日」「同悪日」「兼付吉日」「願成就日」「四季の文」「文

書き様の事」「書初詩歌」「七夕詩歌」「女中名頭字」

「伊呂波三体」「硯筆の由来」「女兒教訓歌」「小笠

原諸礼式」「新改正服忌令」「家名尽」「諸道具字尽」

「衣類の字」「草木字尽」「十二月倭名」「九九の声」

「十千十二支絵図」

れた教訓文」(末)「十千十二支絵図」

### 女実語教姫鏡 美濃判 一冊

筆者不記 西村屋与八「永寿堂」(江戸) 梓 天明四(一七

八四)年三月版 嘉永一(一八四八)年一月再版

〔付載〕(頭)「裁物早学問」

### 女実語教操鑑 美濃判 一冊

筆者不記 秋田屋源兵衛・秋田屋源之助(大阪) 合梓 天

保一三(一八四二)年四月刊

〔付載〕(首)「女子教養の図」(頭)「小笠原流女諸礼調法

記」(末)「万折形包物の図」「十千十二支」

### 女実語教 中本 一冊

筆者不記 山本平吉・西村屋与八(江戸) 合梓 刊年不記

(江戸時代後期)

〔付載〕(首)「大和言葉」「公家女性の図」(頭)「女今川図

解」「源氏物語引歌香図」(末)「父母女子の教の図

と解説」「夫に仕える教の図と解説」

### 女実語教 (角書「天保改正」) 美濃判 一冊

筆者不記 田中屋長蔵「経訓堂」(江戸) 梓 天保一五「弘

化一年(一八四四)一月刊

〔付載〕(頭)「七夕歌つくし」(二丁目表まで)

### 四、女手習教訓系

### 女てならひ教訓の書 (題簽剥落内題による) 美濃判

一冊

筆者不記 江見屋吉右衛門(江戸) 梓 刊年不記(江戸時

代中期、享保ころか)

〔付載〕(首)「版元の序文」「女しつけかた」「女たしなみ

草」「女一代身もちかがみ」(頭)「短我身の上(た

がみのうえ)」「合食禁」「万どくけし」「七夕うた

尽」「百人一首よみくせのならひ」「文の封じよう」

### 女実語教操種 美濃判 一冊

筆者不記 池田東籬亭編・書 西村中和・森川保之画図

山城屋彦兵衛(京伏見)・大野屋嘉兵衛(名古屋)・菊屋

七郎兵衛・山城屋佐兵衛(京都)の四書肆合梓 天保四(一

八三三)年春刊

〔付載〕(首)「版元の序文」(頭)「前訓(口教)ならびに

婦人六徳和歌」(石門心学の教化思想によって記さ

### 一、教訓型

一、教訓型

女手習教訓書 半紙判 一冊

(内題「女手ならひ教訓の書」) 筆者不記 西村屋与八(江戸) 梓 文政一(一八二八) 年三月再版

〔付載〕(首)「和歌の三神の図と解説」「女子の手習・読書の図」「女中手わざの図」「洗濯の図」「婚礼式法の図」(頭)「児女教訓手習状」「琴・三味線の事」「衣装の正字尽」「小児の薬法」「生涯の祝事」

女手習教訓書 中本 一冊

英松斎筆 西村屋与八・森屋治兵衛(江戸) 合梓 文政一(一八二九) 年刊

〔付載〕(首)「女子を対象とした読書指導の図」(頭)「猿と蟹ばなし」「正月二日宝舟の話」(末)「折形図」

五、仮名教訓系

女教訓岩根松 中本 一冊

筆者不記 鶴屋喜右衛門(江戸) 梓 明和三(一七六六) 年八月刊

〔付載〕(首)「視・聴・信・動に関する図と解説」(頭)「書・

縫・読に関する図と解説」「華・筭に関する図と解

説」「新撰大和詞」「七夕祭並歌尽」「産帯秘鑑」「懐

胎十月心得の事」「婚礼千代見草」「男女相性」「不

成就日」「小笠原流折形図」

今川了俊息女教訓文(題簽剝落 内題による) 中本

一冊

筆者不記 和泉屋市兵衛「甘泉堂」(江戸) 梓 文化一四(一八一七) 年夏月刊

〔付載〕(首)「鏡に向う心得と図」「下部への心遣いと図」(頭)「婚礼の事」「女中慎むべき事」「小笠原流折形」

烏丸大納言より三条殿御息女江被遣候御異見

の御婦美 美濃判 一冊

筆者不記 書写年月不記(江戸時代後期)

〔備考〕袋綴一面三行、草書体の書写本

烏丸帖 美濃判 一冊 石刷版

(内題「烏丸とのより三条殿御息女への御文」) 烏丸光広編 博文館「大橋新太郎」(東京) 梓 明治二五(一八九二) 年六月再刊

〔付載〕(首)「長三洲の題言」「福羽美静の序文」「跡見花蹊の序文」(末)「橋詰敏作の後序」

六、女大学系

女大学宝箱 美濃判 一冊

筆者不記 柏原屋清右衛門(大阪)・小川彦九郎(江戸)

合梓 享保一八（一七三三）年八月刊

〔付載〕（首）「口絵四面（農耕・種まきより米收穫までの

図）」「南京八景（絵と和歌）」「十二月色紙和歌」

「源氏物語（五四帖の題名・和歌・絵画）」（頭）「女

性の一般教養科目二〇種（挿絵二〇面）」「衣服の

正字尽」「女性の職業一九種（絵画を主とす）」「女

性のたしなみ（四面の絵画）」（末）「版元の跋文」

「百人一首絵抄」「二十四孝絵抄」「世嗣草」「小児

養育草」「小児急用薬方」

〔備考〕享保一年版と同一の版下を用いたもの。

## 女大学教草（角書「教訓」） 美濃判 一冊

池田善次郎編 溪斎英泉画 和泉屋市兵衛（江戸）梓 天

保一四（一八四三）年夏刊

〔概要〕本文は、享保版に同じ。ただし、同一版下を用い

たものではない。

〔付載〕「古今集四季の歌と図」「七小町のこと」「男女一

代守り本尊」「婚礼式法之次第」「願成就日」「不成

就日」「天福日」「毎月門出を忌む日」「天医日」「暦

略註童蒙便覧」「八将神の事」「年中二十四氣」「一

二直の事」「暦の解」「六曜毎日善悪を知る」（末）

「世嗣草」「小児養育草」「妙薬調法集」

〔備考〕本書の後半に、「教訓女今川」を収める。

## 女大学宝文庫 美濃判 一冊

筆者不記 亀屋半兵衛・亀屋弥三郎（伏見大阪町）合梓

嘉永一（一八四八）年七月刊

〔概要〕本文は享保版に同じ。ただし、同一版下を用いた

ものではない。

〔付載〕（首）「女子手習いの図」「近江八景の図」「衣服裁

ちものの秘伝」「大和言葉」（頭）「女教訓身持鏡」

## 女大学栄文庫（角書「教草」）

筆者不記 栄久堂（江戸）梓 刊年不明（刊記剥落のため、

江戸時代後期）

〔概要〕本文は享保版に同じ。ただし、同一版下を用いた

ものではない。

〔付載〕（首）「和姫命・衣通姫の図と解説」「近江八景図並

びに和歌」「手習い物よみの事」「衣あらい張りの

事」「琴三味線の事」「張り仕事の事」「髪化粧の事」

「子を育つること」「結納婚姻平産の心得」（頭）「和

歌の徳の事」

## 女訓 一名一新女大学（角書「女學必読」） 美濃判 一冊

高田義甫述 伊藤桂洲筆 協力舎蔵版 北畠茂兵衛（千鐘

房）（東京）梓 明治七（一八七四）年二月序

〔概要〕享保版とは全くの異文。旧来の婦道観を基調とし

ながらも、維新後における新しい文明開化的な女

## 一、教訓型

一、教訓型

性観にもとづく女訓を盛りこもつとしてある。

〔付載〕(首)「前田夏馨の序文」 「養蚕・織帛に関する図

絵」(頭)「女訓註解」

R—8

近世女大学 半紙判 一冊

土居光華著 和泉屋市兵衛(東京)梓 明治七(一八七四)年一月刊

〔概要〕享保版とは全くの異文。二二章より構成され、各章それぞれ女性の本質と立場と心得とを説いてある。女性における人間性の尊重、基本的人権並びに自由を強調しつつ、当代の日常生活にそくして女性に必要な心得の数々を記している点に特徴が見られる。

〔付載〕(首)「題字」 「近代学校で女子学習の図」 「近代女性の風俗図」 「藤原千浪の序文」

文明論女大学 半紙判 一冊

土居光華著 森市三郎(博文堂) (武蔵国熊谷駅) 明治九(一八七六)年七月二〇日刊

〔概要〕前項と同じ女性観・女子教育観をもって、享保版女大学の一条一条を徹底的に批判してある。福沢諭吉著『女大学評論・新女大学』の先駆的な著書

とも目される。

〔付載〕(首)「題字」 「東京女子師範の図」 「例言」 (末) 「跋文」

女大学 (角書「改正」) 半紙判 一冊

関葦雄著 巻菱潭筆 江島金太郎(萬笈閣) (東京) 明治一三(一八八〇)年二月刊

〔概要〕享保版とは全くの異文。全編を一二の条文と結びの言葉とで構成し、旧来の婦人観・女子教育観で一卷させ、漢語を多く用いている点に特徴が見られる。

新撰女大学 美濃判 一冊

西野古海著 水田得哉筆 片野東四郎(東壁堂) (名古屋) 梓 明治一五(一八八二)年五月一五日刊

〔概要〕享保版とは全くの異文。全編を二六の条文と結びの言葉とで構成し、婦徳・婦言・婦容・婦功の四行を中として、新旧観念を折衷する形で婦人の心得を解いているのが特徴といえる。

〔付載〕(首)「序文」 「徳・言・容・功に関する図と解説」 「女性風俗図」 (頭) 「婚礼」 「懐妊の事」 「髪置」 「食初」 「袴着」 「養蚕」 「裁縫」

七、近世後期の女訓系

与興津氏之女書付 美濃判 一冊

稻葉迂斎作 元文五（一七四〇）年一二月書

〔概要〕興津氏なるものの娘が、元文五年に奥田氏のもとへ嫁ぐに当たり、稻葉迂斎が主婦としての心得を簡条書きで記した形式をとる女訓書。

〔備考〕原本は、新発田市立図書館蔵。ここに収めたのは、その重写本。

女教補談囊 半紙判 一冊

作者不記 藤村善右衛門彫工 村井喜太郎（大阪）梓 宝曆四（一七五四）年三月刊

〔概要〕前半は、何某大納言より息女にあてた消息文のかわりで記してあるが、内容は前掲の仮名教訓系にほぼ同じ。後半は、「付録」として、簡条書きのかわりで女訓の数々を記してある。「付録」としては、あるが、前半より長文で、内容が詳しい。

〔付載〕（首）「何某大納言より息女の文を遣わす」と歌  
「貞の心に関する」と解説  
「女子の三習に関する」と解説  
「婦人の評林に関する」と解説  
（頭）  
「百人一首」「初春祝」「七夕祭」「産帯秘鑑」「懐胎十月心得の事」「ふみつくし」（末）「祝言千代見草」「女中やまと言葉」「不成就日」「願成就日」「寺入吉日」「新衣服着初める日」「女中名尽し」「六十図」「男女相性善悪」「小笠原流折形」

女誠新註 美濃判 一冊

斑昭著 加倉井久泰編（水戸成澤郷士） 須原屋伊八（江戸）梓 寛政八（一七九六）年二月刊

〔概要〕『後漢書 卷第七十四』に収められている斑昭著『女誠』の本文に詳細な注解を施すことによつて、近世後期の女訓書としてある。

〔付載〕（首）「女子学習の図（官部等女の図と書）」「鈴木重宣作の序文」「加倉井忠珍作の序文」

貞女志万津文（角書「初学手本」） 中本 一冊

作者不記 山口屋藤兵衛（江戸）梓 刊年不記「寛政ころ（一七八九〜一八〇〇）」

〔概要〕志万津女の文になぞらえて、女性の貞操の大切なことを論じた教訓文。

〔付載〕（口）「便りの船に関する」と（頭）「七夕の歌」（末）「版元の跋文」

女五常訓倭織 美濃判 一冊

作者不記 柏原屋清右衛門・加賀屋善蔵（大阪）合梓 享保一四（一七二九）年一月発行 延享四（一七四七）年九月再版 文化三（一八〇六）年一月補刻

〔概要〕仁義礼智信の五常の教えに従いながら、女性が日常に守り実践しなければならない諸徳について平易に論じてある。

一、教訓型

〔付載〕(頭)「木綿の生産と女性の労働に関する図と解説」

「女性の家事労働に関する図と解説」

「女五常訓序」(頭)「樂器の由来(図と解説)」

「南都興福寺由来」

「文章散書常法」

「七夕歌づくし」

「日本女能書」

「唐土女能書」

「女中鏡草」

「千世見草祝言式」

(末)「教訓文の栞」

「女妙薬秘伝名方」

「万しみもの落としよう」

「祝言三三九度の図」

「むすめにあたる朝がおのことば」

「男女相性の事」

「十二月異名」

「不成就日」

「願成就日」

「元服漿付嫁取吉日」

「本式折形の図」

児女長成往来 半紙判 一冊

十返舎一九作 晋米斎玉粒筆 山口屋藤兵衛「錦江堂」(江戸)

戸) 梓 文政六(一八二三)年刊

〔概要〕 児女の成長にともなって要用とされる文字を中心

に、日常教訓の数々について記してある。

〔付載〕(首)「一九の緒言」

「大黒天の図と解説」(頭)「諸札封じよう作法」

「遺物進上目録書きよう」

「太刀折紙書法」

「目録の書法」

「香奠折紙書きよう」

「女中より男のかたへ目録」

「書状書き始めの高下」

「同書留の高下」

「祝言状書きよう」

「日和の善悪の事」

女五常訓 美濃判 一冊

作者不記 和泉屋卯兵衛(大阪) 梓 刊年不明(刊記剥落のため、江戸時代後期)

〔概要〕 本文ならびに頭書欄の記事は、前項に同じ。

〔付載〕(首)「江口の女に関する図と解説」

「紀州和歌浦細見」

「三十二相の図と解説」

「賀の詠歌」

「三十六歌仙」

「伊勢長谷海の道中記」

「同名の名所両国にある歌絵図」

「本朝女筆の三跡」

「絵賛狂歌」

「不成就日」

女訓三乃道 美濃判 一冊

作者不記 前川六左衛門(江戸)・河内屋木兵衛(大阪)・吉田屋四郎右衛門・吉野屋仁兵衛(京都) 合梓 文政九(一八二六)年二月刊

〔概要〕 女の道(娘時代)・婦の道(嫁時代)・母の道の三項を設け、いわゆる三従の徳を機軸に、女訓の数々を論じてある。

〔付載〕(首)「中村弘毅の序文(文政六年六月)」

「朝日を拝する図」(頭)「列女伝」

女千字文 半紙判 一冊

森川保之作 竜章堂筆 須原屋平左衛門・丁字屋源次郎・田中屋仙助・山城屋佐兵衛・吉野屋仁兵衛(京都) 合梓

〔概要〕 千字文の形式で、女徳を説く。

〔付載〕(首)「千字文の由来」

「女徳の由来」

「女徳の由来」

「女徳の由来」

「女徳の由来」

「女徳の由来」

「女徳の由来」

「女徳の由来」

「女徳の由来」

「女徳の由来」

「女徳の由来」

「女徳の由来」

「女徳の由来」

「女徳の由来」

「女徳の由来」

「女徳の由来」

天保四（一八三四）年九月刊

〔概要〕

周興嗣「千字文」の形に倣い、四字一句、二五〇句より構成され、女訓の数々について論じてある。歴史的な叙述が多数にのぼっているのが特徴といえる。

〔付載〕

（首）「静高南山の序文」「北条政子の逸話に関する絵図と解説」「行女の逸話に関する絵図と解説」「和歌女の逸話に関する絵図と解説」「女子学習の図」（頭）「女千字文註解」（末）「十千十二支絵図」

### 貞経

美濃判 一冊

八島五岳作 吉野屋仁兵衛（京都）梓 天保九（一八三八）年刊

〔概要〕

端詞・貞静・璋事・子訓・憐婦・嫉誠・申諭の八項をもうけて、女訓の数々について記してある。

〔付載〕（末）「三体伊呂波」

### 女式目鏡草

半紙判 一冊

高井蘭山編述 山城屋清七はじめ江戸の一〇書肆合梓 嘉永五（一八五二）年二月刊

〔概要〕

中世後期より近世にかけて手本として流布した「御成敗式目（貞永式目）」の編集形態に倣い、女性にとって制戒とすべき条条について記してある。近世前期の『女式目』とはまったくの異文。

一、教訓型

〔付載〕

（首）「蘭山の序文（天保三年四月）」「士農工商別女性風俗図（英琳筆）」「小督の局に関する図と解説（同上）」（頭）「本朝女二十四孝」「衣服裁もの伝」「万しみ物落し秘伝」「女けしよの巻」「懐妊心得の事並びに養生の事」

### 孝女碑歌

美濃判 一冊 石刷

伊予守加茂県主直兄作 出版者不記 刊年不記「嘉永四（一八五二）年一月以後」

〔概要〕

楠木正成の後裔とする楠本栄子が、生涯独身を通して両親に孝養を尽くした事跡を、七五調の美文に綴ったもの。文中に「嘉ひ永き四つの年 正月七日の夕つかた 三十七つの齢にて」の句が見られる。

〔付載〕（末）「阿波守加茂県主重誠の跋文」

### 女三字経

角書「小学必読」 半紙判 一冊

東條琴台著 伊藤桂洲書 瀬山庄助・松崎半造（東京）合梓 明治六（一八七三）年八月刊

〔概要〕

中国宋時代に王伯厚の作った『三字経』に倣って、三字を一句とする詩形によって女訓の数々を詠みあげたもの。

〔付載〕（首）「東條琴台の序文（明治六年六月）」

女のさとし 半紙判 一冊

藤田維正作 野崎近舛筆 加藤良孝画 石川県第一女子師範学校編 益智館(版主)

中村嘉平・近田太平(金沢)合梓 明治一二(一八七九)年七月九日刊

〔概要〕「女の心得」(九章)「女の行事」(七章)「女の仕業」

(六章)の三綱・二二章を設け、女性に必要な教訓ならびに生活心得について記してある。おおむね、近世このかたの女訓の伝統を踏んでいる。

〔備考〕表紙見返しの部分では、「石川県学校蔵版」とし、「上梓」を明治七(一八七四)年二月としてある。

女童教草 半紙判 一冊

小川持正作 深沢菱潭筆 鈴木喜右衛門(東京)梓 明治初年刊

〔概要〕日本の歴史と明治初年における文明開化の動向とをふまえながら、女性に大切な教訓の数々を説いてある。

〔付載〕(首)「悔遅筆の題字」「三條西知卿筆の歌」

R-9

〔国立国会図書館宮田脩文庫所蔵〕

女教訓書並あるへかかり 半紙判 一冊

手島堵庵著 井上文像筆 天保三(一八三二)年書写  
〔概要〕「女子口教」「あるべきやうはといふ事」を収録。

婦人教訓書 女子口教 半紙判 一冊

手島堵庵著 書写年不記  
〔概要〕「婦人教訓書」「女子口教」を収録。

本朝列女伝 美濃判 一〇卷六冊

黒沢弘忠著 勝村治右衛門(京都)梓 寛文八(一六六八)年二月刊

〔概要〕劉向の『列女伝』に倣い、日本の列女伝を作成したものの。后妃・婦人・孺人等に分けて記してある。

〔付載〕「序文」

〔備考〕本文内題は「全像本朝古今列女伝」

賢女物語 美濃判 五卷五冊

芳菊軒某母蒲著 秋田屋五郎兵衛(京都)梓 寛文九(一六六九)年四月刊

〔概要〕親孝、姑孝、夫節の順で構成されている。

〔付載〕「序文」

孝婦鳴盛編 半紙判 一冊

林権兵衛（京都）・米屋佐吉（播州龍野）合梓 明和九（一七七二）年一月刊

〔概要〕「龍野孝婦之小伝」「詩部」「和歌之部」「発句之部」「付録」等より成る。

絵入本朝賢女鑑 美濃判 二巻二冊

奥田松庇閣（大阪）梓 刊年不記

〔概要〕日本における賢女を選び、記してある。

近世貞婦伝 半紙判 五巻五冊

河内屋八兵衛（摂陽）等四書肆 寛政一一（一七九九）年一月刊

〔概要〕わが国の貞婦を選んで、物語風に記してある。

## R-10

和漢廿四貞女伝 美濃判 一冊

八島五岳編・画 俵屋清兵衛（京都）梓 天保九（一八三八）年刊

〔概要〕中国及び日本の女性から貞女として二十四名を選び、記してある。

孝女みさほ草 半紙判 三巻三冊（内題「孝女操種」）

立川焉馬撰 敦賀屋善兵衛（大阪）等六書肆 弘化四（一

八四七）年刊

〔概要〕中国、日本の女性から孝女、貞女の逸話を選んである。

列女百人一首 中本 一冊

緑亭川柳編 葛飾出老人・一陽斎豊国画 山口屋藤兵衛（江戸）梓 弘化四（一八四七）年一月刊

〔概要〕日本の列女を百人一首にならって絵と和歌で仕立ててある。

〔付載〕（首）「和歌の始」他

烈婦伝 半紙判 一冊

安積信著 河内屋八兵衛（大阪）等十二書肆 刊年不記

〔概要〕日本の賢烈夫人十数人について記してある。

烈女伝（角書「本朝彤史」） 半紙判 二巻二冊

白川幸編 大谷仁兵衛・杉本甚助（京都）合梓 明治一二（一八七九）年二月刊

〔概要〕孝・貞・賢・忠・勇に分け、それぞれにふさわしい女性について記してある。

英雄烈女伝（角書「画本」） 美濃判 三巻一冊

小野藤吉（大阪）梓 明治年間刊（明和三年原版）

〔概要〕日本の烈女を採り上げ、それぞれの挿絵を中心に

一、教訓型

構成されている。

新撰列女伝 半紙判 二卷二冊

堀重修編 明治八（一八七五）年一二月刊

〔概要〕日本の列女を選んで、詳しく解説してある。

本朝列女伝（角書「小学勸善」） 半紙判 一冊

松平直温編 榊原芳野閱 渡辺貞吉（大阪）梓 明治一二

（一八七九）年一二月刊

〔概要〕小学勸善の修身書として、日本の貞女列女を解説してある。

越後孝婦伝 美濃判 一冊

林愿撰 寛保二年の本文 安政五（一八五八）年の跋文

〔概要〕越後州三島郡尼瀬町に住む大工の妻の孝婦伝。

〔付載〕「越後国嫩孝心の次第」「再刻尼瀬孝婦伝跋」

燈心屋孝女伝（角書「大阪嶋之内」） 半紙判 一冊

寛政二（一七九〇）年成

〔概要〕南問屋町大和屋卯兵衛の養女の孝子伝。

〔備考〕内題「南問屋町孝子幸女行実」

現存貞婦染行状 半紙判 一冊

（内題「貞婦染女行状」）日尾くに子著 播磨屋勝五郎（江

戸）梓 安政四（一八五七）年刊

〔概要〕武州多摩郡大谷村の農民左衛門の妻染女の賢女伝。

和田邑孝女茂代伝（角書「和州」） 半紙判 一冊

鎌田一窓著 近江屋治郎吉（京都）梓 本文は天明一（一

七八一）年五月成立

〔概要〕和州添上郡田原郷和田村、農民の養女茂代の孝女伝。

絵本女貞木 半紙判 一冊

菊屋喜兵衛（京都）梓 延享二（一七四五）年一月刊

〔概要〕貞義徳容の優れた日本の女性について、絵本にまとめられている。

をんなか、み（内題「女鏡秘伝書」） 美濃判 三卷三冊

野田弥兵衛（京都）梓 慶安三（一六五〇）年五月刊

〔概要〕女性の教訓、諸札等について記してある。

女鏡秘伝書 美濃判 三卷一冊

山本長兵衛（京都）梓

〔概要〕前掲に同じ。

〔備考〕慶安五年版後刷

## 和国新女鑑

美濃判 四卷四冊

毛利田勝太郎（大阪）梓 正徳四（一七一四）年一月刊

〔概要〕賢明、仁智、節義、貞心、才弁等にすぐれた日本の女性について記してある。

## 女中庸瑪瑙箱

美濃判 一冊

植村玉枝子編 和泉屋卯兵衛（大阪）梓 明和五（一七六八）年刊

〔概要〕江戸後期における武家ないし庶民の生活に必要な女訓を平易に記してある。

〔付載〕（首）「馮媛に関する逸話と図」他（頭）「唐の貞女逸話」他

女逸話」他

## 女用智恵鑑

美濃判 一冊

柏原屋清右衛門（大阪）梓 享保一四（一七二九）年一月刊

〔概要〕「女用智恵鑑」他多数の記事を収録。

〔備考〕合本に属する。

## 女中庸教訓鏡

半紙判 一冊

山崎先生校正 上友堂（江戸）梓 刊年不記

〔概要〕前掲「女中庸瑪瑙箱」を参照。

## 女中庸

美濃判 一冊

某先生筆 伊勢屋半右衛門（仙台）梓 文政一三（一八三〇）年一〇月刊

〔概要〕前掲参照

〔付載〕（首）「教訓に関する逸話」

〔備考〕表紙見返しは「御家流女中庸」

## 女大学宝箱

美濃判 一冊

菊屋幸三郎（江戸）梓 刊年不記

〔概要〕謙堂文庫本解題を参照。

〔付載〕（首）「伊勢太、御神樂の事」他（頭）「手習並に文学の事」他

## 女大学宝文台

半紙判 一冊

西村屋与八（江戸）梓 嘉永一（一八四八）年一月再版

（天明四年原版）

〔概要〕前掲参照

〔付載〕（頭）「女中平生身もち鑑」他

## 女大学絵抄

中本 一冊

光盛舎作丸編 元治一（一八六四）年四月刊

〔概要〕本文の文言の間に絵図を挿入し、本文の右には語句の簡単な解説を付してある。

一、教訓型

新女大学要鑑（角書「教訓」） 美濃判 一冊

白崎堯谷書 大和屋作次郎（江戸）梓 慶応二（一八六六）

年四月成

〔概要〕『女大学宝箱』に代表される「女大学」とは全く異

文。本文内題は「新女大学」。

女要操文庫 美濃判 一冊

長谷川光信画 糸屋市兵衛（大阪）梓

いさめ草 美濃判 二卷一冊

宝永三（一七〇六）年四月序

〔概要〕女子に限らず、一般の童子を対象に教訓を記して

ある。

〔付載〕（首）「教訓の短文と絵図」

〔概要〕全体を一通の手紙文に仕立て、教訓を説いてある。

女郎詠教訓歌 美濃判 一冊

晚香散人玉枝子著 西川祐信画 植村藤右衛門（京都）梓

宝暦三（一七五三）年一月刊

〔付載〕（首）「仁義礼智信の教訓と絵」他

大和女訓 半紙判 三卷一冊

井沢長秀撰 茨城多左衛門（京都）梓 享保五（一七二〇）

年一月刊

〔概要〕天照大神はじめ神祇を尊び、夫君舅姑に仕える心

掛けや女兒の遊び等について説いてある。

教訓女朝鏡 半紙判 五卷五冊

津熊武範著 正本屋吉兵衛（京都）等三書肆 宝暦三（一

七五三）年一月刊

〔概要〕講学、勸諭、孝愛、節義、柔弱の五卷に分けて、

女性の教訓を説いてある。

R-12

女家訓 半紙判 三卷一冊

保井恕庵著 山口茂兵衛（京都）梓 享保一四（一七二九）

年一月刊

〔概要〕「鑑草」の主旨に倣い、女子の教訓を解説してある。

貞女列女の判 半紙判 三卷三冊

出版者不記 刊年不記

〔概要〕日本の貞女、賢女を採り上げ、解説してある。

童女教訓松間鄙言 半紙判 四卷四冊

梅臚館主人著 田原屋平兵衛(大阪) 梓 明和四(一七六七)年六月刊

〔概要〕女性のあるべき姿や守るべき道徳を記してある。

女学範 美濃判 二卷二冊

大江資衝著 河南四郎右衛門(京都) 梓 明和五(一七七八)年

〔概要〕女性にふさわしい教養について解説してある。

諫母草 美濃判 一冊

唯祢著 岡吉兵衛(京都) 梓 明和八(一七七二)年二月刊

〔概要〕唯祢が母親へ提悔を送る形式で記してある。

女教訓和歌百首 美濃判 六卷六冊

簫月子撰 刊年不記 出版者不記

〔概要〕百人一首に倣って、教訓を和歌に詠んである。

〔付載〕(頭)「本文の歌の解説」

婦行俚解 美濃判 一冊

書写年月不記

〔概要〕婦行俚解、老の心、桃の若菜等の章から成る。

R | 13

米澤公御女訓 美濃判 一冊

書写年月不記

〔概要〕前掲『婦行俚解』のうち、表題の章を除き、ほぼ類似の内容から成る。

女幼学操艸 美濃判 一冊

雅鷹述 須原屋平左衛門(京都)等四書肆 文化八(一八一一年)三月刊

〔概要〕女性のあるべき姿や教訓を記してある。

〔付載〕(首)「孝貞誠慈愛図画」(末)「百人一首絵抄」他

女雑書教訓鑑 美濃判 一冊

播磨屋伊兵衛・柏原屋庄兵衛(大阪)合梓 文化九(一八一二年)一月刊

〔概要〕教訓や男女相性など、女性にかかわるさまざまな作法や知識を集めてある。

女中躰品々 美濃判 一冊

書写年月不記 文政一(一八一八)年一二月松岡清助辰方等の奥書あり

〔概要〕女性の諸札について記してある。

一、教訓型

女訓三の道 美濃判 一冊

中村弘毅著 舛屋勘兵衛(京都)梓 文政六(一八二三)  
年六月の序

〔概要〕謙堂文庫本解題参照

女童子訓翁艸 半紙判 四卷四冊

竹田春庵著 加賀屋前蔵(大阪)梓 文政二(一八二八)  
年一月刊

〔概要〕女性の守るべき心構えや道理を説いてある。

女学則操鑑 美濃判 一冊

須原屋茂兵衛(江戸)・秋田屋太右衛門(大阪)合梓 天  
保五(一八三四)年一月再刻

〔概要〕「女訓」の間に、賢女の逸話等を挿入してある。

〔付載〕(首)口絵他 (頭)「諸芸手業教草」他

女訓宝文庫 半紙判 一冊

徳々堂蒼々編 刊年不記

〔概要〕合本。「女今川状」「百人一首」「女大学」「四季女  
用文」より成る。

〔付載〕(首)口絵他 (頭)歌仙他

女教訓千代の鶴 美濃判 一冊

木村陽応筆 泉栄堂(江戸)梓 弘化二(一八四五)年八  
月の跋文

〔付載〕(首)「女中詞つかひの事」他

良姻心得艸 半紙判 二卷二冊

津田祇宗編 錢屋惣四郎(京都)等六書肆 弘化三(一八  
四六)年四月刊

〔概要〕婚姻についての名言や逸話を中心に集めてある。

女一代操鏡 中本 一冊

二松庵主人著 安政六(一八五九)年の序文

〔概要〕女性の日常生活の場面ごとの振る舞いや心がけを  
絵本に仕立ててある。

嫁女教訓書 横本 一冊

出版者不記 刊年不記

〔概要〕婦女教訓書の絵図を集めて仕立てた零本か。

R-14

女訓綾廻雛形 半紙判 五卷五冊

書写年月不記

〔概要〕「婦女の心得」として必要な教訓や知識を記してあ  
る。

曹大家女誠和解 美濃判 一冊

宮川正毅編 鼓文堂梓 文化九(一八一二)年の序

〔概要〕曹大家の「女誠」を解説してある。

大村邦英著 相良尚辰(東京)梓 明治一一(一八七八)年八月刊

〔概要〕「女職ノ篇」「女行ノ篇」より成る。

女訓孝経 半紙判 一冊

池田秀泉註 出版者不記 刊年不記

〔概要〕「女孝経」に基づいて書き改めた本文に、注釈を加えてある。

〔付載〕(頭)「本文の注釈」

〔女訓孝経〕 半紙判 一冊

片野東四郎(名古屋)等三書肆 文化一〇(一八一三)年春刊

〔概要〕書名は国会図書館目録の書外題。内容は、「孝経」の注釈本。

〔付載〕(首)口絵

女教草 半紙判 一冊

内藤末須著 深澤菱潭筆 藤屋伝右衛門(甲府)梓 明治六(一八七三)年刊

〔概要〕皇国としての日本にふさわしい女性の教訓を説いてある。

女子善行録(角書「教訓絵入」) 半紙判 二巻二冊

干河岸貫一(大阪)著・梓 明治一三(一八八〇)年四月刊

〔概要〕真宗の教えを中心とした賢婦烈女伝を記してある。

楠正成金剛山居間壁書 横本 一冊

書写年月不記 合書本中に収録

〔概要〕楠正成の書き残した訓戒という形式によって、武士として必要な修養や生活心得等について二三条の箇条書きにして記した往來の書写本。

北州列女伝 半紙判 一冊

書写本 天保一(一八三〇)年二月

〔概要〕遊女を中心とした列女伝。

女千字文 半紙判 一冊

静亭南山編 丁子屋源治郎(京都)梓 天保四(一八三三)年秋の序

〔概要〕謙堂文庫本解題を参照。

女学緊要 半紙判 一冊

女実語教鎖囊 美濃判 一冊

一、教訓型

菊屋喜兵衛・鈔屋安兵衛（京都）梓 享和二（一八〇二）年一月刊

〔概要〕謙堂文庫本解題を参照。

R—15

手習女訓（角書「小学必読」）半紙判 一冊

柴田花守著 田中太右衛門（大阪）梓 明治五（一八七二）年九月刊

〔概要〕女兒向けに編まれた女訓。

〔付載〕（首）「習字の図」

女訓玉文庫（角書「百人一首註絵しやう」）美濃判 一冊

冊

杉岡長兵衛（大阪）等三書肆 文政九（一八二六）年一月刊

〔概要〕前半に女訓およびその絵図を、後半に百人一首絵抄及びその注釈を収めてある。

百人一首女訓抄 中本 一冊

山田常典校 本屋又助（江戸）梓 嘉永一（一八四八）年一月序

〔概要〕和歌についての教養等及び百人一首を題材にした解説から成る。

女訓手習鏡（角書「御家」）中本 一冊

内野善邦編 内野屋弥兵衛（江戸）慶応二（一八六六）年刊

〔概要〕「女今川」「女手習教訓書」「女消息往来」「源氏名

寄」「婚礼女国尽」「女大学」「墨田川往来」「女用文章」「女庭訓倭文庫」を収録。

〔付載〕（首）「衣通姫の逸話」他（頭）「光明皇后の逸話」他

修身女大学 半紙判 二卷一冊

青木輔清著 内田弥兵衛（東京）梓 明治一〇（一八七七）年八月刊

〔概要〕上篇は女性を守るべき教訓を、下篇は戒めるべき事柄を記してある。

母の導き 半紙判 二冊

マルセツト著 土井光華訳 和泉屋市兵衛（東京）梓 明治七（一八七四）年一月の序

〔概要〕地学を中心とした内容を、母子の問答形式によって記した原書の訳本。

女範（角書「改正」）半紙判 三卷三冊

小田深蔵訳・梓 明治一三（一八八〇）年一〇月再版  
〔概要〕「独逸蘭列爾所著經濟養生教育等の書」から女子の

規範となるべき部分を抄訳してまとめてある。  
〔付載〕(末)「字書」

### 母親の心得 半紙判 二卷二冊

近藤鎮三訳・梓 明治八(一八七五)年一月刊

〔概要〕クレンケ(ドイツ)の著書及びハルトマン(同)の養生説を訳して編集してある。

### 子供育草 半紙判 二卷二冊

村田文夫訳 岩浪長蔵(東京)梓 明治六(一八七三)年

一月序

〔概要〕小児養育について記したゲッセル(アメリカ)の著書の訳本。

### 子育ての草紙 小本 八卷八冊

望月誠編 由巳社(東京)梓 明治一〇(一八七七)年二

月〜九月刊

〔概要〕小児の養育にかかわる様々な知識を記した雑誌。

## R-16

〔東京学芸大学 望月文庫所蔵〕

### 童女教 半紙判 一冊

一、教訓型

筆者不記 書写年月不記

〔概要〕「女童子教」の筆写本。

### 女教文海智恵囊 美濃判 一冊

長谷川貞寿筆 高橋平助(大阪)梓 刊年不記

〔概要〕「男女の始並官号」「女諸礼」「用文章」等を収録。

### 女万歳宝文庫 美濃判 一冊

柏原屋清右衛門(大阪)梓 天保一二(一八四二)年四月

再刻

〔概要〕「婚礼略式」「女小学五章」「熱田縁宋女の事」「照田姫の事」「百人一首」等を収録。

### 女中庸宝文庫 半紙判 一冊

満笈閣(東京)梓 刊年不記

〔概要〕女中庸は前掲明和五年版とほぼ同文。

〔付載〕(頭)「女化粧の事」他

### 女大学(角書「小学習字」) 半紙判 一冊

小室樵山筆 満青堂(東京)梓 明治六(一八七三)年三

月刊

〔概要〕女大学本文は「女大学宝箱」等に収録されているものと同内容。

〔付載〕(首)「蚕養図」

**女実語教** 美濃判 一冊

林泉堂筆 山静堂(江戸)梓 嘉永六(一八五三)年一月の跋文

〔概要〕女実語教については、謙堂文庫本解題を参照。

**女実語教宝箱** 美濃判 一冊

表紙見返しは文繡堂・靖共閣(摂津)合梓 刊記では藤屋宗兵衛(大阪)梓 刊年不記

〔付載〕(頭)「姑につかふる堪忍」他 (末)「十二月の異名」他

**女教訓百ヶ条** 美濃判 一冊

出版者不記 刊年不記

〔概要〕合本中「女教訓百ヶ条」のみを綴合わせたものと目される。

〔付載〕(頭)「女三十六歌仙」他

**女小学** 半紙判 一冊

佐藤慎一郎筆 敦賀屋九兵衛(大阪)等五書肆 嘉永三(一八五〇)年三月再刻

〔概要〕天保三年版(文海堂梓)の再版本。

〔付載〕(頭)「至德皇后」他

**袖玉百人一首教訓鑑** 小本 一冊

松川屋直次郎(大阪)梓 文化四(一八〇七)年七月刊

〔概要〕「女教訓宝鑑」「百人一首」「女実語教・女童子教」「女今川教訓書」等を収録。

**教の玉章**(角書「女童修身」) 半紙判 二卷二冊

小川持正著 深澤菱潭筆 鈴木喜右衛門(東京)梓 明治七(一八七四)年三月刊

〔概要〕全十一章から成り、各章ごとに女性の教訓を述べた手紙文の形式がとられている。

**女小学教鑑** 美濃判 一冊

吉田屋文三郎(江戸)梓 天保一四(一八四三)年五月刊

〔概要〕本文に女小学を収録。

〔付載〕(首)「紫式部の逸話」(末)「十二支」他

**女今川教訓** 美濃判 一冊

齐藤八四郎(会津)梓 刊年不記

〔概要〕本文に女今川を収録。

〔付載〕(頭)「婦人躰方たしなみの事」他

〔謙堂文庫所蔵〕

一、消息文例系

女庭訓御所文庫 美濃判 一冊

下河辺拾水子画 菊屋七郎兵衛（京都）梓 明和四（一七

六七）年一月刊

〔概要〕代表的な消息文例系の形式をもつ。各文例ごとに、

月日・差し出し人・宛て名が記されている。

〔付載〕（首）「文車ちりづかの図」他（頭）「女教訓躰方」

他

猿山松華往来（秋冬） 美濃判 一冊

寛政二（一七九〇）年一〇十月跋文 赤城藤周編 山崎金

兵衛（江戸）梓

〔概要〕四季の後半の女消息文より成る。一貫した形式は

とらず、散らし書や宛名・差出人・日付の有無な

ど、異なった形式の文例を集めている。

〔備考〕石刷本

女風月往来（角書「四季要文」） 半紙判 一冊

堀原甫作 西河龍章堂筆 森川保之画 林権兵衛等六書肆

（京都） 天保五（一八三四）年十一月刊

〔概要〕十二ヵ月各一通、計十二通の女子用消息文より成

る。「女庭訓往来」に比べ、内容は簡略化され、返

状はみられない。男子用の『風月往来』と対をな

すものといえる。

〔付載〕（頭）「上巳雛祭の来由」他

はつ音往来 美濃判 一冊

松月堂筆 出版者不記 刊年不記

〔概要〕ほぼ一ヵ月往返一対で十二ヵ月を構成しているが、

本書では十一月一対および十二月一通がない。「女

庭訓往来」に比べ、月日のみ記され、差出人や宛

名はほとんど省略されている。

二、用文章系

女初学文章 美濃判 下巻一冊

窪田宗保息女やす筆 出版者不記 万治三（一六六〇）年

六月刊

〔概要〕十一文例を収録

〔付載〕（頭）本文中に番号を添えた語彙について、簡単な

説明を付す。

〔備考〕散らし書き

### 女筆往来 美濃判 三卷三冊

出版者不記 刊年不記

〔概要〕四季の挨拶等の文例を収録。

〔備考〕『国書総目録』では、寛文十年書籍目録等によると

あり。

### 女用文章 (角書「当流」) 美濃判 三卷三冊

源女敬筆 山崎屋市兵衛・吉野屋次良兵衛合梓 天和二

(一六八二)年七月刊

〔概要〕卷上(四季)、卷中(祝言)、卷下(雑並字尽)か

ら成る。

〔付載〕(頭)本文中の語彙について、簡単な説明を付す。

〔備考〕散らし書き

### 女用文章綱目 美濃判 二卷一冊

筆者不記 柏原屋清右衛門(大阪)梓 元禄一一(一六九

八)年一月刊

〔概要〕(卷中)五月雨、冬にかけての文 (卷下)雪降り、

歳暮他の文

〔付載〕(卷中)(首)「御厨子の図」他 (頭)「加茂の斎

宮の事」他 (卷下)(首)「女諸芸の事並絵抄」

他

〔備考〕冒頭の一丁は、上巻の第一文例と推察される。

### 難波津 (角書「女筆」) 美濃判 二卷二冊

長谷川妙躰筆 柴田十郎兵衛・岡本半七(京都)合梓 正

徳四(一七一四)年一月刊

〔概要〕季節の情景を読み込んだ文例から成る。

〔備考〕散らし書き

### 女中文章鑑 美濃判 一冊

筆者不記 中村孫三良(京都)梓 享保五(一七二〇)年

三月刊

〔概要〕一通ごとに、前半に不適切な文章を記し、その右

に細字で注を加え、後半に正しい文章を示して構

成されている。

〔付載〕(首)序 (末)「四季」「月の異名」他

### 女文庫高時松 美濃判 一冊

小川彦九郎(江戸)・柏原屋清右衛門(大阪)合梓 享保

六(一七二二)年一月刊

〔概要〕本文は『女用文章綱目』に同じ。

〔付載〕(首)「紫式部の事」他 (頭)「女鑑秘伝書写」

(末)「小笠原流万包様折形の図」

### 女文林宝袋 美濃判 一冊

居初氏女筆 都音作 銭屋庄兵衛(京都)梓 元文三(一

七三八)年三月刊

〔概要〕四季用文を中心に収録。

〔付載〕(首)「文字の由来並女文の書初」他 (頭) 語彙  
説明 (末)「不成就日の事」他

### 女用文色紙染

(角書「新板女筆」) 美濃判 一冊

田むらよし尾女筆 村田屋治一郎兵衛・鶴屋喜右衛門(江戸)  
合梓 宝暦一二(一七六二)年改版

〔概要〕主に四季用文から成る。

〔付載〕(首)「女諸札」他 (頭)「女いましめ草」他

(末) 跋文

## R-18

### 女教文章鑑

美濃判 一冊

林氏蘭女筆 西川祐信画 菊屋喜兵衛(京都)梓 寛保二

(一七四二)年二月刊

〔概要〕四季用文の他、慶弔文等を収録。

〔付載〕(首)「序」「五段かへし散し文」他 (末) 跋文

### 女文台綾囊

美濃判 一冊

田中友水子編 寺井重信画 丹波屋理兵衛・河内屋茂兵衛

(大阪)合梓 延享一(一七四四)年五月刊

〔概要〕四季用文の他、慶弔文等を収録。

〔付載〕(首)「序」「小野お通が伝」他 (頭)「歳時故事

略」他 (末)「三十六歌仙」他

### 女千載和訓文

美濃判 一冊

正文堂作 月岡丹下画 吉文字屋市兵衛(大阪)・同次郎  
兵衛(江戸)合梓 宝暦九(一七五九)刊

〔概要〕本文は、題名のいろは順に収録。

〔付載〕(首)「女筆の道和図」他 (頭)「女諸札教草」他

(末) 跋文

### 女用紅葉の錦

美濃判 一冊

筆者不記 山崎金兵衛(江戸)・菱屋治兵衛(京都)合梓

宝暦一三(一七六三)年三月刊

〔概要〕四季用文を中心に構成。

〔付載〕(首)「不成就の事」他 (頭)「女子教訓歌」他

(末) 跋文

### 女用文章糸車

美濃判 一冊

北尾辰宣画 渋川清右衛門(大阪)梓 明和九(一七七二)

年九月刊

〔概要〕四季用文の他、慶弔文等を収録。

〔付載〕(首)「光明皇后等賢女の解説と図」他 (頭)「女

中文の志折」他 (末)「即座之占」

### 女文章宝鑑

美濃判 一冊

澤井随山筆 吉文字屋市兵衛(大阪)・銭屋庄兵衛(京都)

合梓 安永四(一七七五)年一月刊

〔概要〕 四季用文の他、様々な日常文を収録。

〔付載〕 (首)「野々宮・光明皇后等の解説と図」他 (頭)

「教訓和歌」他 (末)「男女相性の事並歌」他

### 女用福寿台 美濃判 一冊

竹原春潮齋画 高田政度作 吉野屋為八(京都) 梓 天明  
五(一七八五)年一月刊

〔概要〕 四季用文、趣味関係の文等を収録。

〔付載〕 (首)「定家・素性法師の歌と絵」他 (頭)「学問  
の図」他 (末)「琴の名所」他

〔備考〕 七〇丁に「戸田正栄」の署名がある。

### 女文章四季詞鑑 美濃判 一冊

西宮新六・前川六左衛門(江戸)合梓 天明九(一七八九)  
年一月刊

〔概要〕 四季用文を中心に慶弔文等を収録。

〔付載〕 (首)「和歌の事」他 (頭)「教訓手ならひ短歌」  
他 (末)「松の異名和歌之詞」

## R-19

### 女諸用文章 美濃判 一冊

橘正敬筆 須原屋市兵衛(江戸)梓 寛政一一(一七九九)  
年五月刊

〔概要〕 四季用文の他、慶弔をはじめ様々な日常の文を取

録。

〔付載〕 (末)「文封じ様」他

〔備考〕 表紙欠落

### 女諸通文鑑 (角書「日用調法」) 半紙判 二巻二冊

表紙見返しは宝文堂の序 刊記は大野木市兵衛(大阪)等  
三書肆 享和二(一八〇二)年一月刊

〔概要〕 (上巻)はつ春より土用見舞の四季用文及び日常の文  
(下巻)中元より歳暮の四季用文及び日常の文を収録。

〔付載〕 (首)「序文」他 (頭) 本文の替字や他の表現例  
を記す。(末)「封じやう折かた」

### 女用文独稽古 (内題による) 中本 一冊

錢屋庄兵衛(京都)等三書肆 文化九(一八一二)年春刊

〔概要〕 「四季十二ヶ月の文づくし」「女一代祝儀事の文尽」  
「女日用文づくし」より成る。

〔付載〕 (頭)「書初の歌」他 (末)「七夕の歌づくし」

### 女用文通宝字鑑 中本 一冊

筆者不記 森屋治兵衛(江戸)梓 文化二二(一八一五)  
年一月刊

〔概要〕 主に四季の用文章より成る。

〔付載〕 (首)「和歌三神之像」他 (頭)「用文日毎肝要」

(末)「扁冠尽」他

### 女文通宝袋

(角書「絵入」) 半紙判 一冊

龍章堂筆 表紙見返しでは永好堂(京都)合梓 奥書では吉野屋仁兵衛(京都)梓 文化一四(一八一七)年春の序文

〔概要〕四季用文の他、慶弔をはじめ日常の文を収録。

〔付載〕(首)「序文」他 (頭)「文こと葉つかひ」他 (末)

「封じやうひな形」他

### 婦人手紙の文言

(頭書「頭書万用」) 中本 一冊

重田一九案 臨泉堂筆 表紙見返しでは、崇文堂・文会堂・永寿堂(江戸)合梓 奥付では西村屋与八等四書肆(江戸)合梓 文政三(一八二〇)年九月刊

〔概要〕四季用文の他、慶弔をはじめ様々な日常の文を収録。

〔付載〕(首)「香道たしなみの事」他 (頭)「文の封じや

う」「月のかはり名」他

〔備考〕巻頭目次の一丁目が欠落している。「女手ならひ教訓の書」を本文末に収録。

### 女書札文庫

半紙判 一冊

龍章堂筆 伏見屋半三郎等三書肆(京都)合梓 文政五(一八二二)年一月刊

〔概要〕四季用文の他、慶弔をはじめ様々な日常の文を収

二、消息型

録。

〔付載〕(首)「茂広の序文」 (末)「状封じ様の事」他

## R-20

### 婦宝文庫

美濃判 一冊

筆者不記 須原屋茂兵衛・堂伊八(江戸)合梓 天保四(一八三三)年春刊

〔概要〕四季用文の他、慶弔をはじめ日常の文を収録。

〔付載〕「三十六歌仙絵抄」他 (頭)「倭語来由並仮名遣

法」他 (末)「文封じ様の高下並に脇付け書様」他

### 女用文章宝鑑

美濃判 一冊

筆者不記 須原屋茂兵衛(江戸)梓 天保一(一八四〇)年一月刊

〔概要〕主に四季用文で構成。

〔付載〕(首)「六歌仙」他 (頭)「文のかへことば」他

(末)「文封じ様の高下並に脇付け書方

### 女用手習鏡

半紙判 一冊

観章堂筆 寒川半山画 表紙見返しでは宋栄堂梓 奥書では秋田屋太右衛門(大阪)等六書肆 天保二(一八四一)年一月刊

〔概要〕「四季の部」及び「雑の部」で構成。

〔付載〕(首)「田中秋曆の序」他 (頭)「大日本国尽」他

女用文章糸車 美濃判 一冊

龍章堂筆 柏原屋清右衛門(大阪) 梓 天保一二(一八四

一)年四月再刻

〔概要〕本文については明和九年板と同内容。異版。

〔付載〕(頭)明和九年版と同内容。絵図は異なる。(末)

明和九年版とほぼ同内容。

女用文倭錦 (角書「年中日用」) 美濃判 一冊

(内題「女要文通大全」) 皆川惟馨筆 和泉屋市兵衛(江

戸) 梓 天保一四(一八四三)年七月の跋文

〔概要〕四季用文他日常の文を収録。

〔付載〕(末)「跋文」等

女雅俗要文 (角書「御家」) 半紙判 一冊

月林園筆 表紙見返しでは青雲堂(江戸) 梓 奥付では福

田屋勝蔵(江戸)等十書肆 弘化三(一八四六)年一月の

序文

〔概要〕四季用文の他、慶弔をはじめ様々な日常の文を収

録。

〔付載〕(首)梅沢敬典の序

女中用文玉手箱 中本 一冊

山東庵京山撰 松岡鶴斎筆 山田屋庄兵衛(江戸) 梓 嘉  
永六(一八五三)年春刊

〔概要〕往古の女の消息の事、四季用文及び他慶弔文。

〔付載〕(首)山東庵京山の序文 (頭)「めで度かしくと

かく事」他 (末)文脇付書やう他

〔備考〕京山の序文は嘉永四年二月。

女四季用文章 中本 一冊

長橋間右衛門筆・作 表紙見返しでは合書堂(大阪) 梓

奥付では中川勘助(大阪)等十二書肆 明治八(一八七五)

年二月の題言

〔概要〕四季や祝日の文を収録。

〔付載〕(首)「手紙を書く女性の図」他 (頭)「漢語字解」

他

R-21

開化女用文大成 (角書「小学習字」) 半紙判 一冊

城頭拙作 青山清吉(東京) 梓 明治一〇(一八七七)年

三月刊

〔概要〕四季の題材の他、日常の様々な文を収録。

〔付載〕(首)「題辞」 (頭)「作文字類」

雅俗女用文 半紙判 一冊

為永春水著 梅沢敬典筆 武田伝右衛門（東京）梓 明治  
二四（一八九一）年一〇月刊  
〔概要〕本文は「女雅俗要文」と同一。

### 小学女用文（角書「開化」） 中本 一冊

大矢滝蔵（東京）編・梓 明治二四（一八九一）年七月刊  
〔概要〕四季用文の他、慶弔をはじめ日常の文を収録。

### 近体婦女用文（角書「明治新撰」） 中本 二巻二冊

香能邨幹女編 此村庄助（大阪）梓 明治三三（一九〇〇）  
年四月五版（初版は明治二九年）

〔概要〕上巻は「四季の部」「日用の部」 下巻は「日用の  
部（続き）」より成る。

〔付載〕（首）「はしがき」 （頭）「女子消息の書様」他

### 開化女用文章 中本 一冊

島田豊三郎編 辻岡屋文助（東京）等一〇書肆 刊年不記  
（明治年間）

〔概要〕四季用文及びに慶事の文を収録。

〔付載〕（首）序文 （頭）『女中用文玉手箱』とほぼ同じ

（末）「文脇付の事」他

### 三、消息詞系

#### 二、消息型

### 女用消息往来 中本 一冊

筆者不記 鶴屋喜右衛門（江戸）梓 文化一（一八〇四）  
年八月刊

〔付載〕（首）「序」「文の心得に関する解説と絵」他 （頭）

「年中消息詞」他

### 女用消息往来 小本 一冊

筆者不記 和泉屋市兵衛（江戸）梓 天保年間刊

〔付載〕（首）「文を書く女性の図」 （頭）「十二月の倭名」  
〔備考〕表紙見返しに「天保新刻」とある。

### 女消息栄文庫 半紙判 一冊

凌雲堂筆 山本平吉（江戸）梓 嘉永四（一八五二）年八  
月刊

〔付載〕（頭）「教訓誰身の上」他

### 女消息往来（角書「明治新刻」） 小本 一冊

本多芳雄編 荒川藤兵衛（東京）梓 明治一二（一八七九）  
年一二月刊

〔付載〕（首）「日用器財名尽」 （頭）「頭書講釈」他

### 女消息往来（角書「開化」） 小本 一冊

鶴田真容編 小森宗次郎（東京）梓 明治一二（一八七九）  
年一二月刊（御届）

二、消息型

〔概要〕上記本とは異なる内容である。  
〔付載〕(首)「女文の書き方」

女消息往来 (角書「小学習字」) 半紙判 一冊

中島操編 巻菱潭筆 内田弥兵衛(東京)梓 明治一三(一)

八八〇) 年六月刊

〔付載〕巻末に、本文を細字・総ふりがなつきで書き改めてある。

R—22

〔国立国会図書館宮田脩文庫所蔵〕

一、消息文例系

女庭訓宝文庫 美濃判 一冊

池田善次郎編 溪斎英泉画 和泉屋市兵衛(江戸)梓 天

保一四(一八四三)年夏刊

〔付載〕(首)「業平あづまくだりの図」他 (頭)「和漢烈

婦伝並図」他 (末)「古今集賀の歌」

二、用文章系

女教平生珠文庫 (角書「新撰」) 中本 一冊

蔦屋重三郎(江戸)梓 天明三(一七八三)年一〇月刊

〔概要〕四季用文および祝儀文を収録。

〔付載〕(首)「和泉式部」他 (頭)「源氏物語目録並香の

図」他 (末)「女中文封様」

女文章教草 美濃判 一冊

浅田恒隆筆 下河辺捨水子画 菊屋長兵衛(京都)梓 天

明五(一七八五)年一月刊

〔概要〕四季用文および祝儀文を収録。

〔付載〕(首)「ひいなまつり」他 (頭)「若菜の節句」他

(末)「十二月異名」他

女文章大和錦 半紙判 一冊

池田東籬亭作 西川龍章堂 伏見屋半三郎(京都)等三書

肆 天保六(一八三五)年一月刊

〔概要〕四季用文の他、慶弔をはじめ様々な日常の文を収

録。

〔付載〕(首)「東籬亭の序」他 (末)「文封じやう」他

女諸通用文章 半紙判 一冊

木村繁雄編 蔀関牛・森春溪画 河内屋喜兵衛(大阪)梓

天保一二(一八四一)年一二月刊

〔概要〕節句及び慶弔などの日常文を収録。

〔付載〕(頭)「女書札式」(末)「十二月異名」他

女文章初鴈金 美濃判 一冊

松陽山筆 和泉屋吉兵衛(江戸) 梓 弘化四(一八四七)年一二月の跋文

〔概要〕四季用文の他日常文を収録。

〔付載〕(頭)「女中生涯心得草」他

女小学用文(角書「開化」) 半紙判 一冊

村田徽典作 青木東園画 丸山正助(東京) 梓 明治九(一八七六)年九月版權免許

〔概要〕春の部、夏の部、秋の部、冬の部、雑の部に分けて収録。

〔付載〕(首)「叙」 (頭)「用文摘語」

三、消息詞系

女消息往来 半紙判 一冊

鶴屋喜右衛門・須原屋茂兵衛(江戸) 合梓 文政五(一八二二)年一月刊

## R | 23

〔東京学芸大学望月文庫所蔵〕

一、消息文例系

一一、消息型

女庭訓御所文庫 美濃判 一冊

下河辺拾水子画 菊屋七郎兵衛(京都) 合梓 寛政二(一七九〇)年九月刊

〔付載〕明和四年版に同じ。

女庭訓教文庫 半紙判 一冊

出雲寺万次郎・森屋治郎兵衛(江戸) 合梓 嘉永四(一八五二)年一月刊

〔付載〕(頭)「女諸礼しつけかた」他 (末)十千十二支

二、用文章系

女用文集 美濃判 一冊

西村末昭筆 奥村喜兵衛(江戸) 合梓 宝曆二(一七六二)年八月の跋文

〔概要〕祝儀や日常の用件文を中心に収録。

〔付載〕(首)「大和めぐり」他

年中女用文章(角書「御家」) 美濃判 一冊

臨泉堂筆 英平吉等三書肆(江戸) 合梓 文化一四(一八一七)年一〇月刊

〔概要〕春の部、夏の部、秋の部、冬の部、雑の部より成る。

〔付載〕(末)「女今川」

女用文小倉錦 (内題による) 中本 一冊

須原屋茂兵衛 (江戸) 梓 天保一〇 (一八三九) 年三月刊

〔概要〕 女用文章の後に「女今川」を収録。

〔付載〕 (頭) 「女教平生益鏡」他

女用手習鏡 (角書「増補」) 半紙判 一冊

観章堂筆 寒川半山画 表紙見返しは宋栄堂梓 刊記は秋

田屋太右衛門 (大阪) 等六書肆 嘉永二 (一八四九) 年一

月刊

〔概要〕 天保一二年一月補刻の『女用手習鏡』の増補本。

〔付載〕 (頭) 「女消息往来」他

女用文宝箱 (角書「皇国」) 中本 一冊

表紙見返しは玉養堂梓 刊記は若林喜兵衛 (東京) 等 明

治初春日新刻とあり。

〔概要〕 主に四季用文で構成。

〔付載〕 (首) 「平仮名いろは」他 (頭) 「近江八景の歌」

他

R-24

女用文抄 (角書「開化」) 半紙判 二卷二冊

平山詮編・筆 小松浦吉 (静岡) 梓 明治一一 (一八七八)

年一 一月刊

〔概要〕 四季、慶弔等の日用文から成る。

〔付載〕 (頭) 「序」 (末) 「付録」

明治女用文 半紙判 一冊

小原燕子編・筆 片山壽恵子 (東京) 梓 (発兌書肆 石川

治兵衛) 明治一二 (一八七九) 年一〇月刊

〔概要〕 四季の行事を中心とした文を収録。

〔付載〕 (首) 「序」 (頭) 各月ごとの用語や文例を示す

(末) 跋文

新撰女用文章 半紙判 一冊

西野古海著 水田得哉筆 片野東四郎 (名古屋) 梓 明治

一五 (一八八二) 年五月刊

〔概要〕 四季の行事を中心とした計六十三通の書状および

各返状から成る。

〔付載〕 (首) 「書状に関する心得と絵」 「序」 (頭) 「書

状心得並緘封様と図」他

女童四季の章 中本 一冊

宮本興晃著 柳川梅次郎 (東京) 梓 明治一八 (一八八五)

年一 二月刊

〔概要〕 大祭日の散らし書十通を含む四季及び日常の文を

収録。

〔付載〕 (首) 「序」 (頭) 「本文かへことば」

女用文章集 美濃判 一冊

鱗形屋孫兵衛(江戸) 梓 刊年不記

〔概要〕 四季用文及び祝儀文等を収録。

〔付載〕(首)「女風俗教訓図」他 (頭)「女諸礼」他

女用婦見硯 半紙判 一冊

長玄海堂筆 表紙見返しは松村梓 奥付は敦賀屋九兵衛

(大阪)等 刊年不記

〔概要〕 四季用文及び祝儀文等を収録。

〔付載〕(首)「文海堂主人の序」他 (頭)「文の封じやう」

他

女童用文章 (角書「海内一般」) 中本 一冊

出版者不記 刊年不記

〔概要〕 四季用文及び祝儀文等を収録。

〔付載〕(首)「文字の始」他 (頭)「近江八景並歌」他

女文章都文箱 中本 一冊

辻本九兵衛等三書肆(京都) 合梓 刊年不記

〔概要〕 四季用文を収録。

〔付載〕(頭)「婚礼に関する解説と絵」他 (末)「人丸大

明神」他

### 三、消息詞系

女消息往来 半紙判 一冊

吉田屋文三郎(江戸) 等八書肆 嘉永五(一八五二) 年刊

改正女消息往来 半紙判 一冊

西野古海編 巻菱潭筆 長島為一郎(埼玉) 梓 明治一三

(一八八〇) 年五年刊

〔付載〕(末) 本文を細字で繰り返し、ふりがなを付してある。

第三 社会型

R-25

〔謙堂文庫所蔵〕

一、年中行事系

四季仮名往来

（角書「新板」） 美濃判 三卷三冊

置散子撰 吉田屋喜左衛門（京都）梓 延宝六（一六七八）年八月刊

〔概要〕 編集方式は古往来中の十二月往来型を踏襲し、一か月往返一双、一年十二双の手紙文から構成されている。各月ごとに主な行事についての質疑応答を内容とする。

〔四季仮名往来〕

美濃判 三卷三冊

出版者不記 刊年不記

〔概要〕 毎月一通、一年で十二通の手紙文から構成されている。毎月往状と返状を繰り返す形式で、女子の教訓を説いてある。内容上は教訓型に分類できる。

女筆四季往来

美濃判 三卷一冊

（中村甚之丞著 福森兵左衛門梓 元禄六年正月刊）の書

写本

〔概要〕 各月ごとに往返一双の手紙文より成る。その月の主な年中行事についての解説が記してある。

〔付載〕（頭）本文中の重要な語句についての解説

年中往来並かな文

（角書「御家」） 美濃判 一冊

文海堂龍山筆 大坂屋茂吉（江戸）梓 文化一〇（一八一三）年五月刊

〔概要〕 江戸の年中行事を中心に記した年中往来と、国巡りを記したかな文との合本。

繁栄往来

半紙判 一冊

呉陵軒著 安永六（一七七七）年五月刊

〔概要〕 江戸府内を中心とした年中行事を記し、全体で一通の手紙文の形式をとる。

〔付載〕（首）「江戸天満宮参詣案内」他

年中往来

中本 一冊

西宮新六（江戸）梓 天明七（一七八七）年三月刊

〔概要〕 月の推移に伴う行事を記してある。男子用の武家用文章型往来にも属する内容であるが、頭書欄中の七夕の和歌など女子用にも共通した記事を含む。

〔付載〕（頭）「御江戸繁栄往来」「七夕の和歌」他

江戸年中往来 中本 一冊

亀屋文蔵（江戸）等三書肆 享和一（一八〇一）年三月刊

〔概要〕江戸の年中行事を記し、全体で一通の手紙文の形式をとる。

〔付載〕（頭）「五節句の故事」他

年中時候往来 中本 一冊

泉花堂三蝶著 勝耕徳筆 西村屋与八（江戸）梓 享和三

（一八〇三）年九月刊

〔概要〕江戸の一年を、自然の移り変わりを中心に述べてある。

年中行事文章 中本 一冊

泉花堂三蝶著 山口屋藤兵衛（江戸）梓 文化一（一八〇

四）年五月刊

〔概要〕江戸を中心とした年中行事について記述してある。故事来歴を文中に織りまぜて解説しているのが特徴的である。

二、趣味系

仙府年中往来 中本 一冊

燕石斎薄墨著・梓 文政頃刊（『伊勢半右衛門蔵板目録』に

よれば文政十年二月とあり）

〔概要〕仙府の年中行事について記述してある。

〔付載〕（首）口絵 （頭）「五節句の故事」

花鳥往来（角書「大橋」） 美濃判 一冊

成嶋花隠庵著 大橋重友筆 和泉屋庄次郎（江戸）梓 文

政一一（一八二八）年四月刊

〔概要〕一年の移り変わりを、四季折々の景色を中心として美文で記してある。

四季扇文章 中本 一冊

高井蘭山著 千葉なを筆 花屋久次郎（江戸）梓 文化五

（一八〇八）年六月刊

〔概要〕扇の起源とその発達及び種類などを記してある。  
〔付載〕（首）「扇屋の図」 （頭）「扇に関する解説」

衣裳文章 中本 一冊

高伴寛著 花屋久次郎（江戸）梓 刊年不記

〔概要〕季節に応じた行事や時候にふさわしい着衣について記してある。

〔付載〕（首）機織に関する解説と図 （頭）「織物字尽」

二、趣味系

和漢朗詠集 美濃判 二巻二冊

松会板 延宝二（一六七四）年九月刊

〔概要〕古代・中世を通じ、詩歌の手本として広く用いられていた和漢朗詠集を、返り点や送りかなを付し

た形式で、編集してある。

和漢朗詠集（角書「新板」） 二卷一冊

出版者不記 貞享三（一六八六）年一月刊

〔概要〕延宝二年板とは、編集形式がやや異なる。返り点・送りがな・主要な漢字にふりがなを付してある。

和漢朗詠集大成 美濃判 二卷二冊

浅茅氏書 既康堂梓 元禄一六（一七〇三）年二月刊

〔概要〕返り点・総ふりがなを付してある。

〔付載〕（首）「四条大納言公任の図」（頭）「瀟湘八景詩

歌」他

R-26

和漢朗詠集 美濃判 二卷一冊

中川茂兵衛（京都）梓 正徳二（一七二二）年一月刊

〔概要〕返り点・総ふりがなを付してある。

〔付載〕（頭）「二十四孝絵抄」他

和漢朗詠集 美濃判 二卷二冊

澤井随山筆、勝村治右衛門・中川藤四郎（京都）合梓 天

明二（一七八二）年七月刊

〔概要〕返り点・総ふりがなを付してある。

和漢朗詠集絵入 半紙判 二卷二冊

梅村弥右衛門・太田勘兵衛（京都）合梓 貞享一（一六八

四）年三月刊

〔概要〕返り点・総ふりがなを付してある。所々に挿絵を収録。

和漢朗詠集 中本 二卷二冊

岡村屋庄助（江戸）梓 刊年不記

〔概要〕返り点・総ふりがなを付してある。

〔付載〕（頭）「新撰朗詠集」

四季詩歌集 中本 一冊

和泉屋市兵衛（江戸）梓 奥付では天保一五（一八四四）

年再板 題簽では嘉永新版とあり

〔概要〕和漢朗詠集からの抜粋により編集してある。

七夕歌づくし はさみ細工紋切りかた 中本

一冊

美濃屋千八（江戸）梓 刊年不記

〔概要〕前半に七夕のうた四十八首、詩六句を、後半に紋切形を収録してある。

源氏名寄文章（角書「頭書絵入」） 中本 一冊

高橋尚富筆 花屋久次郎（江戸）梓 寛政七（一七九五）

年六月刊

〔概要〕源氏五十四帖の名を織りこんで作られた美文調の  
女文章からなる。

〔付載〕(頭)「書初詩歌尽」他

### 源氏名寄文章 中本 一冊

寛政七年版の再版本 岩戸屋喜三郎(江戸)梓 文政四(一  
八二一)年八月刊

### 源氏物語表白 半紙判 一冊

僧聖覚作 琴松亭由比演徴筆 寛政九(一七九七)年五月  
書写

〔概要〕源氏五十四帖の名を織りこんで作られた文章であ  
るが、「源氏名寄文章」とは別文。

### 御家流源氏六十帖 美濃判 一冊

出版者不記 書写年月不記

〔概要〕源氏五十四帖の名を入れて作った文章。後半に消  
息文例六を収録。

### 当流小謡囃舞鶴 中本 一冊

鶴屋喜右衛門(江戸)梓 寛政八(一七九六)年一月再版

〔概要〕小謡七十四番と肴謡四十六番とを収録。

〔付載〕(頭)「能面の図」

### 大歎小諷千秋楽 (角書「観世当流」) 中本 一冊

西村屋与八(江戸)梓 文政五(一八二二)年再々版(寛  
政一〇年再版)

〔概要〕小謡七十四番と肴謡十六番とを収録。

〔付載〕(頭)「能面の図」他

### 当流小うたひ (角書「章句改正」) 中本 一冊

表紙見返しでは山静堂・鶴栄堂合梓、奥付では山崎屋清七

(江戸)梓 文久一(一八六一)年一月刊

〔概要〕小謡七十四番を収録。

〔付載〕(頭)「能面の図」

三、その他

### 新撰世帯往来 中本 一冊

鶴屋喜右衛門(江戸)梓 天明二(一七八二)年三月刊

〔概要〕衣食住を始め家庭生活上の管理・経営に至る内容

について、それにかかわる語彙を列举する形式で

解説してある。

〔付載〕(頭)「文字の始り」他

〔国立国会図書館宮田脩文庫所蔵〕

### 女諸礼綾錦 半紙判 二巻二冊

木村繁雄編 河内屋喜兵衛(大阪)梓 天保一二(一八四

一) 年一二月刊

〔概要〕 女子の教訓を始め、教養、諸礼法等について、詳細に解説してある。

**世界婦女往来** 中本 一冊

山本与助・大野木市兵衛(大阪)合梓 明治六(一八七三)年八月刊

〔概要〕 世界各国の概要とその国の女性について生活・教育風俗等を解説してある。

〔付載〕 (頭) 「勅諭之略」他

〔東京学芸大学望月文庫所蔵〕

**花園百人一首女鏡** 半紙判 一冊

広嶋屋伊助梓 天保一四(一八四三)年九月刊

〔概要〕 本文には絵入りで百人一首を収録してある。

〔付載〕 (頭) 「和歌三神の図」他

〔謙堂文庫所蔵〕

一、地理系

女筆初瀬川

（角書「国尽名所」）

美濃判 三卷三冊

長谷川女筆

渋川大蔵（大阪）梓

宝曆一二（一七六二）年三月刊

〔概要〕七五調・美文体で、日本六十余州の国名、名所、見所などを海道順によりみこんである。

女文章国尽

美濃判 一冊

大和屋吉兵衛（京都）梓 寛政五（一七九三）年五月刊

〔概要〕本文は、『女筆初瀬川』とほぼ同内容。

〔付載〕（頭）「仙歌外集」他

国尽女文章

中本 一冊

滝沢馬琴撰 鶴屋喜右衛門（江戸）梓 刊年不記

〔概要〕婚礼文の形を用いて、美文調で日本六十余国の国名・名所・旧跡などについて記してある。

〔付載〕（頭）「諸国名産附」他

女婚礼国尽

（角書「猪瀬」）

美濃判 一冊

猪瀬尚賢筆 和泉屋善兵衛（江戸）梓 嘉永二（一八四九）年五月刊

〔概要〕文言に異同がかなり認められるが、上記「国尽女文章」と本文の大筋は同じ。

江戸方角独案内

中本 一冊

西村屋与八（江戸）梓 享和三（一八〇三）年三月刊（明和三年原版 寛政九年再版）

〔概要〕美文調で江戸府内の地名・町名を書き連ねてある。

〔付載〕（首）「両国橋之風景」（頭）「大日本国尽」他

女江戸方角往来

中本 一冊

松陰堂主人筆 森屋治兵衛（江戸）梓 天保一一（一八四〇）年一二月刊

〔概要〕前記「江戸方角独案内」とは、内容は類似だが一部異なる。

〔付載〕（頭）「女日用の文」他

〔備考〕「近道子宝」等五種から成る合本中に所収。

をみなえと方角

美濃判 一冊

色葉堂芸台作 三田屋喜八（江戸）梓 嘉永一（一八四八）年一一月刊

〔概要〕前記「女江戸方角往来」とは別文。

四、知育型

〔付載〕(末) 歌一首他

**女江戸方角** (角書「名所」) 美濃判 一冊

清和泉堂筆 大和屋作次郎(江戸) 梓 元治一(一八六四) 年刊

〔概要〕前記『女江戸方角往来』と、内容は類似だが、一部異なる。

**洛陽往来並文章** 美濃判 一冊

林泉堂陽嶂筆 山崎屋清七(江戸) 梓 弘化三(一八四六) 年二月刊

〔概要〕前半に「洛陽往来」、後半に消息文を収録。

**女用都名所往来** 半紙判 一冊

〔概要〕前記「洛陽往来」よりも詳細な内容。

〔付載〕(頭)「京町づくし」他

**都名所** (角書「百瀬」) 美濃判 一冊

百瀬豊元筆 前川六左衛門(江戸) 梓 寛政一〇(一七九八) 年五月刊

〔概要〕本文は前記『洛陽往来並び文章』の「洛陽往来」とほぼ同内容で、一部異なる。

**女訓浪華名所** (角書「新撰絵入」) 中本 一冊

葩関牛作・筆 河内屋徳兵衛(大阪)等五書肆 天保五(一八三四) 年八月刊

〔概要〕難波の名所について、歴代天皇との関係を織り込みにながら記してある。

〔付載〕(頭)「大坂に関する和歌と絵」他

**地学用文章** (角書「女訓」) 半紙判 二巻二冊

松濤著 三家村佐平・中島静助(東京) 合梓 明治六(一八七三) 年七月の序文

〔概要〕地学や地理についての学習内容が、往復の手紙文の形式で構成されている。

〔付載〕(首) 題字 (頭)「地球之実質」他

**呉服往来** 半紙判 一冊

池田東籬亭著・筆 塩屋喜兵衛(大阪)等五書肆 天保八(一八三七) 年一月刊

〔概要〕生地、染色、模様の商品目等について記してある。

〔付載〕(首)「越後屋の風景図」

**重宝衣服往来** 中本 一冊

荏亭主人著 平野屋平助(江戸) 梓 弘化五(一八四八) 年刊

〔概要〕衣服の種類、模様や関連道具等について記してある。

〔付載〕(首)「裁縫に関する図」(頭)「裁縫雛形」他

### 裁ぬひをしえ草

半紙判 一冊

西郷葆編 松田氏(越後)梓 明治八(一八七五)年五月刊

〔概要〕裁縫に関する様々な知識を記してある。

〔付載〕(首)「裁縫の図」他

### 裁縫のしをり

半紙判 一冊

浜真砂編 藤森平五郎(長野)梓 明治一〇(一八七七)年九月刊

〔概要〕『裁ぬひをしえ草』とほぼ同内容。

〔付載〕(首)「裁縫の心得に関する歌」他

〔東京学芸大学望月文庫〕

### 女用続文章

半紙判 一冊

菊屋安兵衛□□屋□三郎合梓 文政四(一八二二)年一月  
改刻

〔概要〕「近江八景」「都町尽」等地理に関する内容を中心に収録してある。

〔付載〕(首)「嵐山図」(頭)「梅尽」他

第五 合本型

R-28

〔謙堂文庫所蔵〕

女万用集 半紙判 五卷一冊

筆者不記 北国屋庄兵衛・北国屋権兵衛（大阪）合梓 元

禄一〇（一六九七）年一月刊

〔概要〕（巻第一）子育てよう、親子の孝・嫁姑へ孝、村松

何がしが妻姑に孝行、漠の鮑宣花妻をいとう、親

の為には命を惜しむまじきこと、夫婦貞心、唐の

類なき貞女、唐の寡なる女道をただすこと、婦た

るものは猶も博奕忌むべきこと。（巻第二・三）正

月より十二月まで文章、雑書の文章、女常に取り

扱うこと、女中詞遣字尽（巻第四・五）本紫染め

よう、似紫染めよう、紫のねの目利、紅の遣いよ

う、地紅の遣いよう、すりはく押しよう、かの染

め、茶色染めよう、にごん染め、黒茶染め、浅黄

水色染めよう、万しみもの落としよう、きぬ練り

よう、布さらしよう、小袖あかおとしよう、香を

聞くこと、掛香、迦羅の名、たきもの、女中諸病

妙薬。

女童子往来 美濃判 一冊

編者不記 村井喜太郎・渋川清右衛門（大阪）合梓 正徳

五（一七一五）年九月刊

〔概要〕「大和廻り竜田詣さそいに遣わす文」「二十四孝」

「三条西殿御息女えの文」「染呉服見せに遣わす文

もようつくし」「百人一首絵抄 出典と解題」「和

歌三神の絵像」「はちかつき物語」「いろは歌 み

もちかがみ しつけかた」「三十六人歌仙」「色紙

の書きよう」「短冊の書きよう」「伊勢物語」「うす

雪物語」

女用智恵鑑宝織 美濃判 一冊

編者不記 柏原清右衛門（大阪）梓 明和六（一七六九）

年一月刊

〔概要〕「女はかたちより心をまさるを好む事」「幼より男

女の別を知らしむる事」「女は人に順うが道たる

事」「女に四つの行いある事」「女八歳より習うべ

き書の事」「舅姑に孝行を尽くすべき事」「女は内

を治る第一の事」「女は夫の家を我が家とする事な

らびに七去の法」「嫁入り前教ゆべきこと（十三か

条）」「女の悪しき病五つある事」「女常に心うべき

故事」「女中言葉づかいの事」「女中習うべき条条」

「婚礼心うべき条条」「女中文書きよう」「短冊書き

よう並びに寸法の事」「扇子にももの書く事」「国字

〔付載〕

つかいの事」「女用文章」

(首)「赤染右衛門の図(色刷り)」「住吉社名所(委細図)」「木綿の図(種蒔きより織りまで全体の図)」「五常和歌図式」「十戒和歌絵抄」「和歌威徳略伝」「七夕歌づくし」「鄭氏女孝経を作る図(頭)

「女中一代八卦」「生まれ年善悪」「生まれ日の善悪」「生まれ月よしあし」「生まれ時吉凶」「十千の善悪」「夢はんじ秘伝」「玉しるをしる歌」「六十図」

「男女相性の事」「同極ひでん」「懐妊帯びする日の事」「同むかう方角の事」「女はらみ月を知る事」

「胎内の子男女をしる事」「土公の事」「四季皇帝のうらない」「衣装裁つ日の事」「新敷もの着て向かう方」「乳母とり吉日」「釜なりてよしあし」「耳なりて善悪」「同四悪十悪のこと」「暦の中だん」「同下だん」「嫁取り吉日の事」「元服袴着鉄漿」「てらあり吉日」「下人かかゆる吉日」「味噌たき吉日」

「女中名づくし」「有家無家の事」「守本尊」「不成就日の事」「毎月悪日」「願成就日」「大和詞大成」

「小笠原包物折形」「女中諸礼集」「万積物の図」「当流裁物ひでん」「におい袋の方」「女中諸病妙薬」

「穢物おとし秘伝」「絹練りようの事」「染ものひでん」「双六の手引」「女用文章書替字」「懐妊の事」

「女子を転じて男子となす事」「懐妊をこころみる法」「同食物好禁の事」「産に向かう方角」「産後食

物の事」「産の気付きたるとき心得の事」「胞衣納むること」「初生の小児保養の事」「産土詣の事」「喰ぞめの事」「髪置の事」「被ぞめの事」「産屋の穢の事」「女中見給い益ある本の事」

女文選料紙箱

美濃判 一冊

編者不記 柏原清右衛門(大阪) 梓 寛政八(一七九六)

年三月刊

〔概要〕「百人一首絵抄」「女国尽文章」

〔付載〕(首)「女子労働の図(色刷り)」「女子学習の図」

「被服・服飾に関する図」「三十六歌仙」「日本列女伝」「いろは別教訓歌」「香の図と解説」「婦容の図と解説」「六玉川の図」「色紙短冊の書きよう」「五色和歌」「女文書きよう」「染物しみものひでん」「世嗣草」「諸楽器の図と解説」「和歌三神」「小笠原流折方」

女寺子調法記

(角書「童女専用」) 半紙判 一冊

編者不記 播磨屋九兵衛(大阪)・鉛屋安兵衛(京都) 合

梓 文化三(一八〇六)年五月刊

〔概要〕「女実語教」「女童子教」「女商売往来」「女今川」

〔付載〕(首)「女巧に関する図と解説(七葉)」「(頭)「女身

持鑑」「女中言葉づかい」「婚礼言うまじき詞」「小笠原折形図」「日本国尽」「京都町尽」「男女相性の

事」「六十の図」「四悪十悪の事」「縫物秘伝」「嫁入吉日の事」「漿付吉日」「家名尽」「名字尽」「女中名頭字」「諸道具字尽」「衣類の字」「草木字尽」「草花の部」「四季の文尽」「文書きよりの事」「書初詩歌」「七夕詩歌」「いろは三体」「十二月倭名」(末)「九九の声」「十千十二支」

### 錦葉百人一首女宝大全

美濃判 一冊

編者不記 柏原屋清右衛門・敦賀屋久兵衛(大阪)・菊屋喜兵衛・同七郎兵衛・河内屋茂兵衛(京都)・永楽屋東四郎(名古屋)・蔦屋重三郎(江戸)の七書肆合梓 文化八(一八二一)年三月刊

〔概要〕「女今川」「百人一首絵抄」  
〔付載〕(首)「朝日・松・鶴の図(色刷)」「琴・碁・書・画の絵図」「小笠原流折形図」「女中諸札指南」「琴三味線の絵図と解説」「給仕の心得」「本朝勝景ならびに和歌」「いろは教訓歌」「七種の歌」「秋の七種」

「日月星三光の和歌」「朝昼夜三時の和歌」「新三十六歌仙」「和国賢女絵伝」「女中御所詞」「女中いましめ草」「女中名の字(五性をわかつ)」「法体名づくし」「男女一代守御本尊」「御改正服忌令」「大不成就日」「願成就日」「古今集六義の和歌」「衣通姫の画像と解説」「書初の詩歌」「五節句の由来」「進物積みよりの図」「織縫の絵図」「御厨子黒棚飾様

式法」「四季小袖衣桁荘図」(頭)「鐘の由来の記」

「女宝化粧具始」「婦人産養口伝」「当世染物秘伝」「万しみ物おとし」「弘法大師四目録の占」「女中日用雑書」「女中教養習得に関する図と解説」「七夕の歌」「百人一首読曲(よみくせ)」「三十六歌仙」「源氏五十四帖 引歌・香の図」「手習いしたまうべき事」「いろは歌の始り」「片かないろは」「裁物の秘伝」「歌読方心得の事」「歌仙貝の図」(末)「近代歌聖俊成卿・定家卿の画像と解説」「婦人一生重宝記」「瀟湘八景の和歌と絵図」「近江八景の和歌と絵図」「五節句の和歌と絵図」「十二月の和名」

## R | 29

### 女古状揃園生竹

(角書「新彫」) 半紙判 一冊

高井蘭山編 須原屋茂兵衛・鶴屋嘉右衛門・英平吉・小林新兵衛(江戸)の四書肆合梓 文政五(一八二二)年九月刊

〔概要〕「女今川」「女手習状」「俳林存義の母書を勧むる文」  
「江州智月尼三道の文」「加賀千代女四民の文」「最明寺殿の母君教訓の文」「祇園梶女七条の教解」「千代能欣求浄土の文」「園女兄弟姉妹の間を論ずる文」

〔付載〕(首)「蘭山の序文」「婚礼式法の図」「女化粧の体」「教訓子育ての体」(末)「蘭山の跋文」

女教小倉草紙 美濃判 一冊

編者不記 須原屋茂兵衛・須原屋伊八（江戸）合梓 文政

二（一八二九）年九月刊

〔概要〕「百人一首絵抄」「女今川」「女手習い教訓の書」

〔付載〕（首）「倭国賢女に関する絵図（色刷）と解説」「讃

岐守兼房に関する逸話と絵図」「近江八景和歌と絵

図」「十二月異名ならびに和歌」「伊勢物語に関する

絵図と解説」「古今六歌仙」「女中つれづれ草」

〔紫式部源氏物語を作りし事五十四帖 香の図〕

〔石山湖水の図〕「三夕の図と和歌」（頭）「三保浦

富士山の景」「色紙短冊書きよう並びに寸法のこ

と」「進物積ようの図式」「女三十六歌仙」「女中平

生身持鏡」「春秋祝い月の事」「新改御所言葉」「女

中五性名頭字」「教訓短我身の上」「婚礼式法指南」

〔男女相性ならびに歌〕（末）「小笠原流折形」「祝

言島台の図」「版元の跋文」

女古状揃

（角書「教諭必用」） 半紙判 一冊

堀原甫編 西川龍章堂筆 森川保之画 山本長兵衛・小川

源兵衛・丸屋善兵衛・山城屋佐兵衛・菱屋孫兵衛（京都）

の五書肆合梓 天保二（一八三一）年一月刊

〔概要〕「女今川」「女手習教訓状」「女教訓冥賀状」「貝原

氏諭状」「同息女返状」

〔付載〕（首）「三五園の序文」「上巳雛祭の図」「四季異名

五、合本型

の図と解説」「十二月異名の図と解説」「女子学習

の図」（頭）「女初春往来」「桜文章」「女流三十六

俳仙」「裁物の弁」「男女五性名頭尽」「十千十二支

絵図・男女相性の吉凶ならびに四悪十悪の事」「髪

置・袴着・かね付吉日」「臨産のとき向う吉法」「願

成就日」「不成就日」

婦教訓万宝全書

美濃判 一冊

編者不記 須原屋茂兵衛・須原屋伊八（江戸）合梓 天保

四（一八三三）年刊

〔概要〕「百人一首絵抄」「女今川」「絵手習い教訓の書」「女

文散らし文」「年中用文章」

〔付載〕（首）「題字」「隅田川風景図（色刷）」「倭国賢女（色

刷）」「讃岐守兼房に関する逸話と絵図」「近江八景

和歌と絵図」「十二月異名ならびに和歌」「伊勢物

語に関する絵図と解説」「古今六歌仙」「女中つね

づね草」「石山湖水の図」「紫式部源氏物語を作り

し事 五十四帖 香の図」「三夕の図ならびに和

歌」（頭）「三保浦富士山の景」「色紙短冊書きよう

並びに寸法の事」「女三十六歌仙絵抄」「進物積よ

うの図式」「女平生身持鏡」「春秋祝い月の事」「新

改御所言葉」「女中五性名頭字」「教訓短我身の上」

〔婚礼式法指南〕「男女相性ならびに歌」「小笠原流

折形」「三十六歌仙絵抄」「枕草子絵抄」「婦女五徳

## 五、合本型

の略解」「厨子黒棚飾様式法」「婦人見るべきの書物」「文筆の和歌」「手習いの心得」「平仮名の本字」

「万葉書仮名本字」「いろは教訓歌」「扇団扇に物書法」「倭語由来ならびに仮名遣法」「七小町図ならびに詠歌」「婦人通用文字尽」「婦人専要衣服文字」「女日用製服の心得」「長生不老養生の事」「源氏目錄文字くさり」「和歌三神詠色の景」「女文江都名所往来」「六玉川の和歌同図」「女中諸病妙薬箱」「御所洗粉の方」「新製掛香薰物の方」「懐胎養生指南」「万食物食い合わせの事」(末)「文封じ様の高下ならびに脇付書法」「年中文の詞種」「香道初心抄」「銘香名寄文字くさり」「鶴亀松竹の図と詩歌」「天満宮勧進の事」

### 女用智恵袋 大宝百人一首紅葉錦 美濃判 一冊

編者不記 須原屋佐助「金花堂」(江戸) 梓 刊年不記(天保ころ(一八三〇―一八四二))

〔概要〕「百人一首絵抄」「女今川」「女用文章栄花鏡」

〔付載〕(首)「題字(色刷)」「京都御所の図(色刷)」「白

馬の節会(色刷)」「源義家の図と和歌」「宇治殿四条大納言公任の図と解説」「定家卿の図と解説」「公任卿大堰川遊覧の図」「十体和歌ならびに図」「日本名勝図と和歌」「十二月異名ならびに和歌図」「万積方の図ならびに和歌」「婚礼式法指南」「大和詞

大概」「御厨子の図と解説」「黒棚の図と解説」「万ひもむすびかた」「衣桁の図ならびに衣更の記」「万折形の図」「和歌三神の図ならびに和歌」「百人一首よみくせ」「新六歌仙ならびに図」「中古和歌三聖」「六玉川」「女三十六歌仙の図と歌」「鯛釣りの図」「茶摘みの図」「曲水の宴に関する図」「顕宗帝・仁賢帝に関する逸話と絵図」「女子労働の図と解説」「源氏文字鎖(頭)」「三十六歌仙」「紫式部の伝ならびに源氏五十四帖」「陽春書初詩歌」「女諸礼しつけかた」「十二支生年吉凶の事」「男女相性の事」「秘伝早染草ならびにしみ落し」「夢はんじ絵抄」「男女名づくし」「文の封じよう並びに脇書の事」「日本賢女伝」「竹取物語絵抄」「二十四孝絵抄」「官位装束の図」「女官装束の図」「月の出入潮の満干の事」「近代集外歌仙」「近世七夕歌づくし」「たなばた発句集」「十千十二支文字」「六十の図」「方角文字」「女用文章」「曆上段吉悪を知る事」「曆中段吉悪を知る事」「曆下段吉悪を知る事」「曆の外日取り吉悪の事」「六曜毎日善悪を知る事」「懐妊腹帯する日」「懐妊の子男女を知る事」「胞衣納むる吉方の事」「産に臨み心得の事」「産前産後食物禁忌」「服忌令」「弘法大師四目録の占方」「珍術器工智恵袋」「諸病妙薬調法記」「江都年中行事」「女中しつけ方」「歴代天皇」「將軍家御代々御治世

の記」「偏冠構字づくし」(末)「四季ならびに十二月異名」

## R-30

**女前訓躰種** (角書「女訓安見」) 美濃判 一冊

手嶋堵庵編 下河辺拾水筆・画 吉野屋仁兵衛(京都)・

須原屋茂兵衛・山城屋佐兵衛・岡田屋嘉七・丁字屋平兵衛

(江戸)・河内屋茂兵衛(大阪)の六書肆合梓 天保二(一

八三二)年新版 天保一四(一八四三)年補刻

〔概要〕「女子口教」(堵庵の女性観ならびに女性教育思想を庶民生活にそくして平易に説いたもの)

〔付載〕(首)「目録」「三韓遠征の凶(色刷)」「本朝賢女鑑」

「あるべきやうという事」「婚礼の式」「御神楽大意」

「孝の字解」「神仏を祭るの大意」(頭)「敬の意義」

「柔順」「清潔」「不妬」「儉約」「恭謹」「勤

勞」「賢女が梅訓」「屏風の慈愛」「身の養生の事」

「家内和合する事」「前訓」「口教」「五倫」「五常の

歌」「親疎の事」「童部を育つること」「新敷衣服着

初める心得」「衣服の事」「女訓づかい」「文の封じ

よう」「女用文章」「女たしなみ草」「誕生日の事」

「有卦無卦の事」「不成就日」「万しみ物おとしよ

う」「懸香の方」「薰物の方」「教訓歌三十六首」「女

中相性名尽」(末)「一代守本尊を知る歌」「ちしご

### 五、合本型

**女万葉玉櫛笥** (角書「女今川四季文」) 美濃判 一冊

編者不記 升屋勘兵衛(京都)梓 安政年間(一八五四〜

八五九)刊

〔概要〕「百人一首絵抄」「女今川」「女大学」「貞経」

〔付載〕(首)「平安貴族社会における女性教養習得の図

三葉(色刷)」「(頭)「女教訓さしも草」「三十六歌

仙絵伝」「一代守本尊」「灸の忌日」「四季皇帝占」

「倭ことば」「懐胎十月教歌」「折形伝授」「百人一

首よみくせ」「七夕歌づくし」「書初詩歌」「産前後

身持心得」「女鏡教訓草」「名頭文字尽」「十二月異

名」「源氏物語名寄長唄」「女たしなみ草」「御所言

葉寄」「新三十六歌仙絵伝」「万おりかたの図」「掛

香の名法」「御厨子黒棚の図」「女実語教」「衣服字

尽」「女今川(本文の「女今川」といくらか異なる)「

「女状文章」「女文封じよう」「かたかないろは」「十

千十二支」「和漢二十四貞女」「貞経の注釈文」

**女訓手習鏡** (角書「御家」) (一名「女子往来」) 半紙判

一冊

内野善邦「文敬堂」編・筆 歌川国貞画 出雲寺文次郎(京

都)・敦賀屋九兵衛(大阪)の二書肆合梓 慶應二(一八

六五)年刊

五、合本型

〔概要〕「女今川」「女消息往来」「源氏名寄」「女婚礼国尽」「女大学」「隅田川往来」「女用文章(付、祝儀ちらし文、御殿むき女文章)」「女庭訓倭文庫」

〔付載〕(首)「柏悦堂の序文(慶應二年九月)」「賢女略伝」「六玉川絵抄」「七小町の伝」「名女伝」(頭)「婦女四徳の事」「女手習の文」「女四季の詠」「女江戸方角」「都路往来」「洛陽往来」「婚礼の式」「御厨子黒棚飾様」「かなづかい」「いろは本字」「女専要衣服の文字」「女相性名尽し」「男女相性」「文封じ方の事」「小笠原流折形」「むすびかた」「竜田詣」「十二ヶ月文の言葉」「月の異名」「名香尽文字鎖」「源氏歌づくし」「源氏物語一部の大意」「女平生身持かがみ」「衣服を裁つ歌の事」「女宮名の事」「七夕祭ならびに歌づくし」「御所言葉」「四季皇帝の占」「生年守本尊の事」「三世相略解」(末)「懐胎十月の図」「六曜破軍星」

女有職字文庫

文海主人 敦賀屋九兵衛(大阪) 慶應二(一八六五)・

夏刊

〔概要〕「四季用文章」「百人一首絵抄」「女大学」「女庭のおしえ」「女小学」「女今川」

〔付載〕(首)「文海主人の序文」「標題目録」「四季風景図(松川半山画、色刷)」「本朝名女集」「文字の始ま

り・画・歌の始まり・香道・碁双六・貝合・琴・縫に関する図と解説」「女官名の事」「小笠原おりかた」「女礼式」「結びかた」「婚礼式の略」「衣類裁物のしよう」「貝おおい絵がい歌貝の図式」「牡丹に関する中国故事の図と解説」「源氏物語香図引歌」「二十四孝絵抄」「源氏略系図」「歌書仮名づかい」(頭)「三十六歌仙」「ふみの封じよう」「扇に物書く事」「色紙短冊懐紙書様ならびに寸法」「時服衣更の事」「化粧のしよう秘伝」「掛香の方」「人間一生の祝の式」「十二月異名和歌」「五倫歌絵抄」「四季献立次第」「同 絵抄」「西王母・花邑・羽衣・桜川・松風・百万・自然居士・斑序の説話に関する図と解説」「婦人七去絵図」「和歌いとく物語」「やまと物語絵抄」「六玉川一体の図」「和歌三神の図」「和歌稽古の仕よう」「和歌二聖六歌仙」「年中式日の次第」「七夕の歌づくし」「やまとことば」「うたこと」「懐胎養生の事」「産前後食物能毒」「小児育てようならびに薬方」「秘方婦人千金方」「染物秘伝」「しみものおとし伝」「絹の張りようの伝」「生花指南抄」「婦人五徳絵抄」「手習いの事」「女簪状」「貝原篤信娘へのさとし状」「同息女返事」「世嗣草」「桜文章」「梅文章」「女教訓冥加状」「時代不同歌合」「春日社・竹生嶋・三輪・生田森に関する図と解説」「夢見善悪の事」(末)「弘法大

師四目録の占」「男女相性の事」「服忌令」「一代の守本尊」「万まじない」「女中名づくし」「新衣服着初吉方」「守本尊を知る歌」「不成就日」「願じょうじゅ日」「うえむけの事」「十千十二支絵図」「暦の中段をしる事」「暦の下段をしる事」「月水とまる月の事」「定家卿の図と解説」

## R-31

### 冊 大全明治新百人一首(角書「民間至宝」) 半紙判 一

小笠原美治編集 田島象二校訂 小笠原美治(東京)梓  
明治一三(一八八〇)年一〇月刊

〔概要〕「田島象二の序文」「勲章の図(色刷)」「日本地図(同上)」「世界地図(同上)」「目録」「弘令本社の図(色刷)」「御祭日ならびに略解」「尊王愛国三十六歌仙」「永代太陽暦ならびに略解」「横文字いろは並びに五十音」「全世界人員表」「五帝国」「四大教」「野蛮文明の区別」「郵便税則略」「各種の政体」「通運会社金子入通送料」「世界大都会経緯」「府県概略改正表」「郡名読例」「知事県令集」「官省諸局」「官等及び月給」「金銀図録」「改正官省定額金」「証券印紙例」「史略表」「世界のあらまし」「詩作平仄図」「懐紙並びに短冊書式」「明治功臣図像」「東京

遊覧案内」「西京遊覧案内」「大阪遊覧案内」「横浜遊覧案内」「東京全図」「西京全図」「大阪全図」「東京中仙道中記」「東京横浜汽車賃表」「西京より大阪に至る汽車発着ならびに賃表」「鉄道乗車心得」「大阪神戸汽車賃表」「親族例」「商家心得草」「明治新百人一首」「明治史略」「布告日用早引」「大日本名山」「楠木正成像」「異名部類」「賃借心得草」「勸解心得ならびに書式及び訴状定則」「訴答文例略」「古証文」「金穀貸借受入証人弁償規則」「出訴期限規則抄」「地所規則略」「利息制限法」「地所質入の証」「利息早見表」「地所書入証」「地券預り証」「借入金証」「布告到着日限」「預り金の証」「電信賃略表」「手付金の証」「代理委任状ならびに規則略」「雇人請状の事」「店請状」「地所名称区別」「婚姻略例」「代人を以て郵便為替金請取の委任状」「養子貰受一札」「養子養女一札」「雅俗用文章」「駅通局預け金ならびに受取手續略則」「為替手形」「送り状の事」「金銀受取」「品物受取」「送籍願」「養子願」「隱居家督願」「他国へ出稼願」「地券替願裏書」「損札引替願」「出版御届」「納本添書」「出版条略」「出産届」「死去届」「死去届差出方順序略」「医師の死去届書式」「当番医検案届」「改印御届」「天象説略」「各官幣社一覽」「止宿人御届」「盗難御届」「遺失御届」「変死御届」「僕婢

## 五、合本型

雇入御届」「服忌令」「啓蒙万象図絵字類」「大日本  
高山測量」「各地沿海周囲里程」「各国航海里程」  
「武将家譜」「年齢月数早見」「家督相続規則略」「教  
導職則類題」「尺度斤量」「神官官等ならびに月給  
表」「教導職等月給表」「支那歴代伝統図」「内国時  
刻遅速」「清帝系統譜」「神代三陵」

〔備考〕 男女両用に編集された往来であったと考えられる。

## 女教草大和錦 美濃判 一冊

一 琴楼胤信編 春田篤次(石川県平民)編 春田徳太郎(金  
沢)梓 明治一四(一八八一)年一〇月刊

〔概要〕 「女大学」「女用文章」「後選百人一首絵抄」「三十  
六歌仙」「女今川」「女消息往来」

〔付載〕 (首)「胤信の序文」「目録」「和歌」「色紙短冊歌書  
きよの事」「手習い」「貝合」「香道の濫觴」「双  
六」「花詰」「機織」「縫針」「衣服を裁つときの心  
得」「結燈台の事」「男女相性考」「知死期くりよう」  
「女名つくし」「有気無気のこと」「不成就日」「婚礼  
式法」「女中嗜の道歌」(頭)「手習いの事」「女媧  
状」「貝原篤信姫へのさとし状」「同息女返事」「世  
嗣草」「桜文章」「梅文章」「女教訓冥賀状」「十二  
月倭名ならびに節句由来」「鶯宿梅に関する図と解  
説」「女子読書の図」「女は人のはじまりの事」「孝  
逆の教え」「守節背夫の教え」「不嫉妬毒の教え」

「教子の教え」「慈残の教え」「仁虐の教え」「淑睦  
の教え」「廉貧の教え」「源氏物語名寄文」「東海道  
長歌」「平仮名の本字」「万葉書仮名の本字」「女訓  
略」「賀寸利絞様教の事」「ツツボタン袋の法」

## 女訓宝文庫 美濃判 一冊

檜崎隆村編 浜本伊三郎(大阪)梓 刊年不記(明治前期)

〔概要〕 「女用文章」「百人一首絵抄」「女大学」「女今川」

〔付載〕 「佐佐堂蒼蒼の序文」「正月子の日に小松を引く図  
(色刷)」「梅の歌と絵図(同上)」「女性の煙草を噛  
む図」(頭)「本朝女二十四孝の略伝」「和歌三神」  
「源氏香の図引歌」「双六の事」「琴の事」「十二月  
の異名」「六歌仙」「本朝賢女伝」「鏡の由来」「香  
道具図」「名香品目」「香道の事」「結び燈台の事」  
「火どころごとくの図」「燧袋の事」「齒黒の事」「女  
の眉とること」「男女相性の事」「潮の満干」「三十  
六歌仙」「願成就日」「不成就日」「女今川(本欄所  
収のものとはいくらか異なる)」「女手習教訓状」  
「都路往来」「いろは三体」「初春の詩歌」「初秋詩  
歌」「四季の文」「女の文封じよう」「文書きよの  
事」「小笠原流折形の図」「女中名頭字」「大日本国  
尽」「六歌仙」「七夕歌尽」

## 女子口教併女今川 美濃判 一冊

手島堵庵編 出版者不明（刊記剥落のため） 出版年月不明（江戸時代後期）（同上）

〔概要〕「女子口教（手島堵庵述）」「女今川（池田東籬亭筆、

松川半山画）」「女大学」

〔付載〕（首）「神功皇后三韓出征の図（色刷）」「住吉神社

風景図（同上）」「本朝賢女鑑」「あるべきやう、と

いう事」「婚礼の式」「愛宕参詣心得の事」「夫妻に

申し渡す事」「御神楽大意」「孝の字解」「神仏を祭

るのは大意」「いろは板」（頭）「婦人六徳和解」「賢

女が梅訓」「屏風の慈愛」「身の養生の事」「家内和

合の事」「前訓（手島堵庵述）」「口教（同上）」「五

常の歌」「親疎の事」「童を育つる事」「新敷着物着

はじめの心得」「衣服の事」「女詞づ解」「文の封じ

よう」「女用文章」「女たしなみ草」「誕生日の事」

「小笠原流折形」「懸香の方」「薫物の方」「教訓歌

三十六首」「櫛の事」「女中相性名尽し」「相性の事」

「一代守本尊をしる歌」「女実語教」「女童子教」「本

朝女二十四孝」「小笠原流折形の図」「衣服裁もの

の秘伝」

〔備考〕裏表紙見返しには「鈴木本家」との書き入れがあ

る。もとは、上記本欄所収の往来は、独立単行の

書籍であったと思われる。これらを、鈴木氏が、

まとめて一冊の手本に仕立てたものと思われる。

忍入

五冊

女重宝記大成（内題「女重宝記」）半紙判 五巻

艸田寸木子作 又兵衛（江戸）梓 刊年不記（江戸時代後

期）

〔概要〕（一の巻）序（艸田寸木子）、女は人間のはじまり、

身の養生、女品さだめ、女しが物がたり、女こと

ばつかい、女けしょうの巻、衣類の沙汰（二の巻）

祝言の次第、嫁どりの巻、祝言道具の次第、

同じく座の次第、式三ごんのこと、手がけ引渡し、

祝言の夜膳部くい物の次第、御厨子黒棚飾よう、

手の道具かざりよう、酌くわえよう、常の盃にて

酒のみよう、女中よろず食い方の作法（三の巻）

懐妊のこと、懐妊か懐妊にあらざるかを知ること

と、同じく身の持ちよう、同じく帯をすること、

産のとき向かいてよき方、同じく忌むべき衣装知

死期くりよう、産前にこしらえおくべき物、産に

のぞみて心得のこと、産後の養生、女の年によつ

て産のよしあし、月により生まれ子のよしあし、

難産の妙薬産後乳はれいたむ薬、生まれ子の次

第、生まれ子養生のこと（四の巻）手習い、歌を

詠み習う、琴をだんずる、貝おおい歌かるた、香

をきく、掛香の名方、迦羅の名、女中諸病妙薬、

よろずしみ物おとしよう（五の巻）女節用集、女

詞字等類、源氏物語の目録、かなづかい知ること、

五、合本型

五節句のこと、新やまと詞

〔備考〕本書は、元禄五（一六九四）年版を原版とし、これ以後、同一三（一七〇〇）年、宝永八年（一七一）と多くの版を重ねて流布を遂げ、この間において内容にいくらかの補訂・増補が行われている。ここでは、江戸後期においてもっとも多く普及したと思われる版を収めた。

R | 32

〔国立国会図書館宮田脩文庫所蔵〕

女節用集文字囊 美濃判 一冊

山本序周編 須原屋茂兵衛（江戸）・秋田屋市兵衛（大阪）

合梓 宝暦一二（一七六二）年五月刊

〔概要〕いろは別に編まれた語句集。

〔付載〕（首）「京東山勝景図」他 （頭）「十千之図」他

女日用大全（角書「万世珍宝」） 横本 三卷三冊

須原屋平助（江戸）等三書肆 寛政八（一七九六）年二月

刊

〔概要〕化粧、出産、調理等に関する項目について記してある。

〔東京学芸大学望月文庫所蔵〕

女用文艶詞 小本 一冊

出版者不記 刊年不記

〔概要〕「百人一首」「女用文艶詞」「年中祝事の始婦人心得草」「女中食札指南」等を収録

〔付載〕（頭）「六歌仙」他

万宝百人一首（角書「女教絵入」） 美濃判 一冊

出版者不記 刊年不記

〔概要〕「百人一首」「教訓おきな草」「女今川」等を収録。  
〔付載〕（首）口絵他（頭）「伊勢物語」他

百人一首色紙箱（角書「歌仙」） 美濃判 一冊

河内屋太助（大阪）梓 嘉永六（一八五三）年一月新版（寛

政八年板の新刻か）

〔概要〕「小倉百人一首」「女大学」「女今川」等を収録。

〔付載〕（首）口絵他（頭）「源氏香の図引歌」他

群花百人一首和歌図 美濃判 一冊

西村屋与八（江戸）再版 文化一四〇一五（一八一七）一八

年増補改正か

〔概要〕「百人一首絵抄」「女今川」を収録。

〔付載〕（首）「和歌三神之像」「つれ、草四季の段」他

（頭）「三十六歌仙図」「女手習状」他